

授業科目名： 教育実践論Ⅰ（学習と発達）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 岡崎 善弘
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実践に係る認知理論や発達理論の基礎を構築する。 ・児童生徒の認知や学習の仕組みを説明することができる。 			
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・発達や学習に関する基礎的事項を具体事例に関連づけて概説します。 ・発達や学習の理論的知識を授業等に活用する実践案を議論しながら検討します。 			
授業計画			
1回目：認知発達の理論と教育実践の関係			
2回目：教育実践の効果検証の方法			
3回目：国内外の科学的根拠に基づいた教育			
4回目：認知科学と教育方法の関係			
5回目：認知科学や認知発達の理論			
6回目：認知科学や認知発達の理論に基づいた実践			
7回目：認知科学や認知発達の理論に関する文献の活用方法			
8回目：認知科学や認知発達の理論に関する文献講読			
定期試験は実施しない			
テキスト			
講義中に資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
認知心理学者が教える最適の学習法（著：ヤナ・ワインスタイン、メーガン・スメラック、オリバー・カヴィグリオリ、監修：山田祐樹、訳：岡崎善弘、東京書籍）			
学生に対する評価			
講義中の課題・授業に臨む意欲・態度・議論の妥当性を総合して判定する。			

授業科目名： 教育実践論Ⅱ（学習と発達）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 岡崎 善弘
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関係する認知理論や発達理論を応用して授業の枠組みを構築することができる。 ・児童生徒の発達や学習の到達状況を考慮しながら教育方法を検討・選択することができる。 			
授業の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の先進的な知見や実践に基づいて発達や学習の意義を概説します。 ・認知発達や認知科学の理論を活用した授業例を作成・議論します。 			
授業計画			
1回目：学習に関わる認知機能：注意・記憶・ワーキングメモリ			
2回目：ライフスキルと学習科学			
3回目：非認知能力と教育方法			
4回目：発達理論に基づいた支持的対応と心理教育①自己理解			
5回目：発達理論に基づいた支持的対応と心理教育②対人関係			
6回目：発達理論に基づいた支持的対応と心理教育③感情調整			
7回目：認知科学の理論に関する文献の活用方法			
8回目：認知科学の理論に関する文献講読			
定期試験は実施しない			
テキスト			
講義中に資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
ライフスキルを高める心理教育： 高校・サポート校・特別支援学校での実践（著：熊谷恵子・田中輝美・菅野和恵、編：石隈利紀、金子書房）			
学生に対する評価			
講義中の課題・授業に臨む意欲・態度・議論の妥当性を総合して判定する。			

授業科目名： 教育課程編成の実践と課題 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高瀬 淳 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校における教育課程の位置づけや編成原則について理解するとともに、現任校・連携協力校の教育課程の実態及び経営の過程を分析し、カリキュラムマネジメントの視点から、教育課程の編成・改善に向けた取組をコーディネートできる力量を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校における教育課程の位置づけや編成原則について理解を深めるとともに、現職教員学生と学部新卒学生の協働により、カリキュラムマネジメントの視点から、教育課程の実態及び経営の過程に見られる課題を発見・分析－解決・提案－探究・検証し、児童生徒に身につけさせたい資質・能力の育成を目指した授業づくり・学校づくりを進めるための理論的・実践的な検討を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（スケジュールからカリキュラムへ） 社会状況の変化と児童生徒に身につけさせたい資質・能力</p> <p>第2回 教育課程編成の意義と課題 教育課程の編成主体</p> <p>第3回 学校教育の目的・目標 現任校・連携協力校の教育目標</p> <p>第4回 教育内容の選択・配列・組織 教育方法の計画としての教育課程</p> <p>第5回 新学習指導案のねらいと特色(1)・・・「主体的・対話的で深い学び」の意味 新学習指導案のねらいと特色(2)・・・「カリキュラムマネジメント」の意味</p> <p>第6回 新学習指導案のねらいと特色(3)・・・育成すべき資質・能力の三つの柱 現任校・連携協力校における教育課程の検討(1)・・・現任校の教育課程編成のプロセスと体制（現職教員学生報告）</p> <p>第7回 現任校・連携協力校における教育課程の検討(2)・・・教育課程編成の現状（グループ協議） 現任校・連携協力校における教育課程の検討(3)・・・教育課程編成にあたっての課</p>			

題の把握・分析（グループ協議） 第8回 学校における教育課程編成の意味 教育課程編成に求められる教職員の資質・能力（まとめ） 定期試験を実施しない
テキスト 使用しない
参考書・参考資料等 秋田喜代美編（岩波講座）教育 変革への展望5 『学びとカリキュラム』岩波書店 2018年 ISBN 978-4-00-011395-3 吉富芳正・村川雅弘・田村知子・石塚等・倉見昇一『これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい 2020年 ISBN 978-4-324-10793-5
学生に対する評価 グループ協議の小レポート（50%）、授業中の意欲（50%）で評価する。

授業科目名： 教育課程編成の実践と課題Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高瀬 淳 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校における教育課程の位置づけや編成原則について理解するとともに、現任校・連携協力校の教育課程の実態及び経営の過程を分析し、カリキュラムマネジメントの視点から、教育課程の編成・改善に向けた取組をコーディネートできる力量を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校における教育課程の位置づけや編成原則について理解を深めるとともに、現職教員学生と学部新卒学生の協働により、カリキュラムマネジメントの視点から、教育課程の実態及び経営の過程に見られる課題を発見・分析－解決・提案－探究・検証し、児童生徒に身につけさせたい資質・能力の育成を目指した授業づくり・学校づくりを進めるための理論的・実践的な検討を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（児童生徒に身につけさせたい資質・能力の育成に向けて） 学校教育のナショナル・スタンダードとローカル・オプティマス</p> <p>第2回 学習指導要領の定着過程(1)・・・文部科学省の役割 学習指導要領の定着過程(2)・・・岡山県・岡山市教育委員会による基準の提示</p> <p>第3回 教科書の検定・採択 補助教材の採択</p> <p>第4回 現任校・連携協力校における教科書・補助教材の実際（グループ協議） 現任校・連携協力校における教科書・補助教材の検討（グループ協議）</p> <p>第5回 カリキュラムマネジメント(1)・・・学校教育目標とカリキュラム カリキュラムマネジメント(2)・・・教育内容・方法の相関性</p> <p>第6回 カリキュラムマネジメント(3)・・・PDCAサイクルに基づくカリキュラムの改善 カリキュラムマネジメント(4)・・・教育内容・方法と条件整備</p> <p>第7回 教育課程編成の実態(1)・・・現任校・連携協力校における教育課程・教育環境の検討（グループ協議） 教育課程編成の実態(2)・・・教育課程編成にあたっての課題の探究・検証（グループ協議）</p>			

第8回 学校におけるカリキュラムマネジメントの必要性 カリキュラムマネジメントに求められる教職員の資質・能力（まとめ） 定期試験を実施しない
テキスト 使用しない
参考書・参考資料等 秋田喜代美編（岩波講座）教育 変革への展望5 『学びとカリキュラム』岩波書店 2018年 ISBN 978-4-00-011395-3 吉富芳正・村川雅弘・田村知子・石塚等・倉見昇一『これからの教育課程とカリキュラム・マ ネジメント』ぎょうせい 2020年 ISBN 978-4-324-10793-5
学生に対する評価 グループ協議の小レポート（50%）、授業中の意欲（50%）で評価する。

授業科目名： 特色あるカリキュラムの 開発 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮本 浩治 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1) 特色あるカリキュラムの意義と、その実際について理解する。</p> <p>2) カリキュラムの編成やカリキュラム・マネジメントについて理解し、実践できる。</p> <p>3) 勤務校あるいは実習校の特色あるカリキュラムの分析を行い、具体的展開（授業）例や充実策を提案できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>各学校では、現代の社会状況や教育課題、児童生徒や学校の実態等に応じてカリキュラムを構成することが求められる。特色あるカリキュラムづくりの意義を明確にしたうえで、カリキュラムの内容・方法・改善に関わる最新の理論を学ぶ。また、実際のカリキュラムを分析・評価し、特色あるカリキュラム開発についての理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>1. オリエンテーション</p> <p>2. カリキュラム・マネジメントの意義</p> <p>3. 特色あるカリキュラムと総合的な学習の時間</p> <p>4. 総合的な学習の時間の具体的展開（演習）</p> <p>5. 小学校における総合的な学習の時間の現状と課題（事例発表）</p> <p>6. 小学校における総合的な学習の時間の改善案（事例発表）</p> <p>7. 中学校における総合的な学習の時間の現状と課題（事例発表）</p> <p>8. まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>教育課程－カリキュラム入門（柴田義松，有斐閣，2000）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>課題図書・論文は、講義中に適宜紹介するとともに、配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中の議論への積極的・主体的参画（70%） 最終レポート（30%）により総合的に判断する。</p>			

授業科目名： 特色あるカリキュラムの 開発Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮本 浩治 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1) 特色あるカリキュラムの意義と、その実際について理解する。 2) カリキュラムの編成やカリキュラム・マネジメントについて理解し、実践できる。 3) 勤務校あるいは実習校の特色あるカリキュラムの分析を行い、具体的展開（授業）例や充実策を提案できる。			
授業の概要 各学校では、現代の社会状況や教育課題、児童生徒や学校の実態等に応じてカリキュラムを構成することが求められる。特色あるカリキュラムづくりの意義を明確にしたうえで、カリキュラムの内容・方法・改善に関わる最新の理論を学ぶ。また、実際のカリキュラムを分析・評価し、特色あるカリキュラム開発についての理解を深める。			
授業計画 1：カリキュラムの特色を具現化する小学校の授業づくり（模擬授業検討会） 2：カリキュラムの特色を具現化する小学校の授業づくり（模擬授業） 3：カリキュラムの特色を具現化する小学校の授業づくり（模擬授業検討会） 4：カリキュラムの特色を具現化する中学校の授業づくり（模擬授業） 5：カリキュラムの特色を具現化する中学校の授業づくり（模擬授業検討会） 6：カリキュラムの特色を具現化する高等学校の授業づくり（模擬授業） 7：カリキュラムの特色を具現化する高等学校の授業づくり（模擬授業検討会） 8：総括討議			
テキスト 「深い学び」を実現するカリキュラム・マネジメント（田村学，文溪堂，2019）			
参考書・参考資料等 課題図書・論文は、講義中に適宜紹介するとともに、配布する。			
学生に対する評価 授業中の議論への積極的・主体的参画（70%） 最終レポート（30%）により総合的に判断する。			

授業科目名： 特別支援教育の実践と 課題 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宮崎善郎、吉利宗久、下中村 武
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別支援教育の目的・目標を理解する。</p> <p>特別な支援を必要とする子どもの特徴及び具体的な支援方法を理解する。</p> <p>多様な学びの場における教育実践の在り方及び校内支援体制等について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援教育における授業づくりや学級経営に関し、個別的支援、学級全体に関わる支援、組織的な校内支援の在り方について学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回 オリエンテーション，特別支援教育の理念と制度（吉利）</p> <p>第 2 回 インクルーシブ教育システムの理念（吉利）</p> <p>第 3 回 支援を必要とする子どもの理解と支援：通常の学級（吉利）</p> <p>第 4 回 支援を必要とする子どもの理解と支援：通級による指導（下中村）</p> <p>第 5 回 支援を必要とする子どもの理解と支援：特別支援学級、特別支援学校（下中村）</p> <p>第 6 回 特別支援教育の視点を取り入れた授業：設計（宮崎）</p> <p>第 7 回 特別支援教育の視点を取り入れた授業：展開（宮崎）</p> <p>第 8 回 特別支援教育の視点を取り入れた授業：評価（宮崎）</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業で適宜配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>吉利宗久・千賀愛（編）（2023） 特別支援教育・インクルーシブ教育のかたち 培風館</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>小課題（30%） レポート課題（70%）</p>			

授業科目名： 特別支援教育の実践と 課題Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大竹喜久、岡田千登勢、岸哲 志、大守伊織
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別支援教育の目的・目標を理解する。</p> <p>特別な支援を必要とする子どもの特徴及び具体的な支援方法を理解する。</p> <p>多様な学びの場における教育実践の在り方及び校内支援体制等について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援教育における授業づくりや学級経営に関し、個別的支援、学級全体に関わる支援、組織的な校内支援の在り方について学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 合理的配慮の提供（岸）</p> <p>第2回 特別支援教育の視点を取り入れた教材の開発（岡田・大竹）</p> <p>第3回 特別支援教育の視点を取り入れた教材の活用（岡田・大竹）</p> <p>第4回 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営：理論（大竹）</p> <p>第5回 特別支援教育の視点を取り入れた学級経営：実践（大竹）</p> <p>第6回 特別支援教育を推進するための校内体制と連携の在り方（岡田・大竹）</p> <p>第7回 特別支援教育の実践上の課題：寄宿舎と学校教育（岸）</p> <p>第8回 特別支援教育の実践上の課題：生きづらさを抱えた子ども（大守）</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業で資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>吉利宗久・千賀愛（編）（2023） 特別支援教育・インクルーシブ教育のかたち 培風館</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>小課題（30％） レポート課題（70％）</p>			

授業科目名： 学級・学年・学校経営の 実践と課題Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金川 舞貴子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 学校組織マネジメントについて、現代の学校教育における意義と基本的な考え方を理解し説明できる。</p> <p>2. 学校経営の諸理論をもとに、学校経営に関するこれまでの知を整理・吟味することで、学校での事象を経営的に読み解く見方を培い、各自の学校経営に関する識見を養う。 〔学部新卒学生〕</p> <p>3-1. 初任期リーダーとして、授業で得た学校組織マネジメントの視点を用いて、学級・学年・学校経営実践事例を読み解くことができる（事例の良さ・課題を見つけ改善案を考えることができる）。 〔現職教員学生〕</p> <p>3-2. ミドルリーダー・学校リーダーとして、上記3-1に加え、人材育成を念頭においた学校・学年経営案や学校経営案、学校評価等の運営について考えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近年、「学校組織マネジメント」は学校現場に強く要求され、その研修も全国的に広く展開されるようになった。近年では、「カリキュラム・マネジメント」の重要性も広く提唱されており、「マネジメント」が、学校で働く全教職員に必要な考え方の一つであることは間違いない。</p> <p>そこで本授業では、まず近年のわが国の学校経営改革の動向をおさえ、現在の学校教育を政治的・文化的・社会的な広い文脈に位置づけて理解する。その上で、事例校や現職院生の現任校等のケースをもとに具体的なイメージを持ちながら、学校経営にかかわる諸制度や仕組みについて本質的な理解を深め、その実践と課題について問題意識を深めていく。</p> <p>また、本授業では教育経営の諸理論を概観し、それぞれの論が「経営（マネジメント）」という営みをどのように捉え（例えば「よい学校」「よい組織」とは何か？）、何を重要視しているのか、その現代的意義や課題は何かを検討していく。それにより、単に「どうすればいいのか」という道具的な問題解決思考に終始するのではなく、学級・学年・学校経営の課題や今後の学校の在り方について読み解く視点・枠組みを形成し、それをもとに適切な課題を設定し、長期的展望で解決する力を培う一助とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション～授業目的・計画、評価 マネジメント思考の基本と自身の振り返り</p>			

<p>第2回 学校組織マネジメントの意義と背景①～政策動向 学校組織マネジメントの意義と背景②～岡山県の教育改革</p> <p>第3回 学校経営の学説に学ぶ (1) ①：効率性・合理性の追求 学校経営の学説に学ぶ (1) ②：人間性の追求</p> <p>第4回 学校経営の学説に学ぶ (2) ①：学校経営の現代化論 学校経営の学説に学ぶ (2) ②：オープンシステムとしての学校</p> <p>第5回 学校経営の学説に学ぶ (3) ①：社会的価値の追求 学校経営の学説に学ぶ (3) ②：事例検討</p> <p>第6回 学校経営の学説に学ぶ (4) ①：省察と対話による学校づくり 学校経営の学説に学ぶ (4) ②：シングルループ学習とダブルループ学習</p> <p>第7回 学校経営の学説に学ぶ (5) ①：学校の組織力を高める 学校経営の学説に学ぶ (5) ②：学校改善事例の検討</p> <p>定期試験を実施しない</p>
<p>テキスト</p> <p>適宜、資料を配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>浜田博文『学校を変える新しい力』小学館、2012年。</p> <p>金井壽宏『ニュー・ウェーブ・マネジメント—思索する経営』創元社、1993年。</p> <p>小島弘道『学校づくりと学校経営（講座現代学校教育の高度化）』学文社、2016年。</p> <p>篠原清昭『学校改善マネジメント』ミネルヴァ書房、2012年。</p> <p>野中郁次郎『MBB：「思い」のマネジメント—知識創造経営の実践フレームワーク』東洋経済新報社、2010年。</p> <p>P.F. ドラッカー『非営利組織の経営』ダイヤモンド社、2007年。</p> <p>P. センゲ『学習する組織—子ども・教員・親・地域で未来の学びを創造する』英治出版、2011年。</p> <p>その他、適宜、配布あるいは紹介する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>1) 授業への参加と貢献（質問，発言，発表） 50% 2) レポート 50%</p>

授業科目名： 学級・学年・学校経営の 実践と課題Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金川 舞貴子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 学校経営（学校組織マネジメント）・学年経営・教科経営・学級経営について、基本的な制度や仕組み、それらを支える考え方、および現代の学校教育における意義を理解し説明することができる。</p> <p>2. 学校経営の諸理論をもとに学校での事象を経営的に読み解く見方を高めるとともに、今後求められる学校経営の考え方や実践について自分なりの考えを説明することができる。 〔学部新卒学生〕</p> <p>3-1. 初任期リーダーとして、学校組織マネジメントの視点から、学級・学年・学校の経営を一貫したものとして捉え、自ら学級・学年経営案や学習指導案を考えることができる。 〔現職教員学生〕</p> <p>3-2. ミドルリーダー・学校リーダーとして、上記3-1に加え、人材育成を念頭においた学校・学年経営案や学校経営案、学校評価等の運営について考えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は1学期の「学級・学年・学校経営の実践と課題Ⅰ」での理論的学びをもとに、近年の教育改革や諸制度に関するより本質的な理解を深め、学校経営の課題や今後の学校の在り方について、実践事例に関するグループディスカッションを通して多角的・批判的に検討する。さらに、現在の学校が置かれている状況や期待される役割を考え、学級・学年・学校経営の課題を探究することで、自身の教育実践研究の発展に必要な知見を得る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 学校経営・学年経営・教科経営・学級経営の実践と課題 第1回目のトピックに関するグループディスカッション</p> <p>第2回 学校経営の考え方と実際～学校評価制度～ 第2回目のトピックに関するグループディスカッション</p> <p>第3回 コミュニティ・スクールを活用した学校づくりの実践と課題 第3回目のトピックに関するグループディスカッション</p> <p>第4回 学級経営の考え方と実際 第4回のトピックに関するグループディスカッション</p> <p>第5回 道徳教育を通じた学校経営</p>			

<p>第5回目のトピックに関するグループディスカッション</p> <p>第6回 事例検討：中学校校長の学校経営実践</p> <p>第6回目のトピックに関するグループディスカッション</p> <p>事例検討：高等学校校長の学校経営実践</p> <p>第7回 第7回目のトピックに関するグループディスカッション</p> <p>これからの学校について語ろう～レポート課題に関するグループ協議～</p> <p>定期試験は実施しない</p>
<p>テキスト</p> <p>授業時に資料を配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>浜田博文『学校を変える新しい力』小学館、2012年。</p> <p>武井敦史『「ならず者」が学校を変える一場を活かした学校づくりのすすめ』教育開発研究所、2017年。</p> <p>P. センゲ『学習する組織ー子ども・教員・親・地域で未来の学びを創造する』英治出版、2011年。</p> <p>妹尾昌俊『変わる学校、変わらない学校』学事出版、2015年。</p> <p>その他、適宜、配布あるいは紹介する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>1) 授業への参加と貢献（質問、発言、発表） 50% 2) レポート 50%</p>

授業科目名： 学校保健・学校安全とリ スクマネジメントⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 松枝 睦美 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①学校保健・学校安全の実践と教育現場の課題について総合的に理解する。</p> <p>②学校保健・学校安全計画立案に必要な知識と技術を身につけ、他の教員や外部の専門家と協働して課題解決する上でリーダー的役割を実践できる。</p> <p>③教育現場で遭遇する学校保健・学校安全とリスクマネジメントについて、多角的に分析し、対処法を企画・実践し、その結果を内省できる。</p>			
授業の概要			
学校保健・学校安全とリスクマネジメントに関する総合的理解をもとに、具体的な事例研究や実地調査に基づいて事前事後を含めた対応策について追究し、学校保健・学校安全計画立案や安全指導、学校保健・学校安全のリスクマネジメントについて学ぶ。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション、学校保健・学校安全とリスクマネジメントの基礎的理解			
第2回 学校保健・学校安全とリスクマネジメントの基礎的理解(事例展開による分析)			
第3回 学校保健・学校安全の今日的課題発見（ワークショップ）			
第4回 学校保健・学校安全の今日的課題と対策（ワークショップ）			
第5回 学校保健・学校安全委員会の基礎理解と応用			
第6回 学校保健・学校安全計画の理解と手立て			
第7回 学校保健・学校安全計画の立案(ケーススタディ)			
第8回 学校保健のリスクマネジメント（応急手当と救急体制づくりの理解）			
定期試験を実施しない			
テキスト			
必要に応じてプリントの配布を行う。			
参考書・参考資料等			
文部科学省：学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育（平成31年3月）			
文部科学省：学校事故対応に関する指針【改訂版】（令和6年3月）			
日本学校保健会：学校保健の動向（令和3年度版）			
学生に対する評価			
授業中の意欲・態度 50%、受講中に課すレポート等の課題 50%とし、総合的に評価する。			

授業科目名： 学校保健・学校安全とリ スクマネジメントⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 松枝 睦美 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①学校保健・学校安全の実践と教育現場の課題について総合的に理解する。</p> <p>②学校保健・学校安全計画立案に必要な知識と技術を身につけ、他の教員や外部の専門家と協働して課題解決する上でリーダー的役割を実践できる。</p> <p>③教育現場で遭遇する学校保健・学校安全とリスクマネジメントについて、多角的に分析し、対処法を企画・実践し、その結果を内省できる。</p>			
授業の概要			
学校保健・学校安全とリスクマネジメントに関する総合的理解をもとに、具体的な事例研究や実地調査に基づいて、事前・事後を含めた対応策について追及し、学校保健・学校安全の計画立案や指導、学校保健・学校安全のリスクマネジメントについて学ぶ。			
授業計画			
第1回 校内研修の手法の理解と評価の実際			
第2回 一次救命処置の実際（幼児・成人モデル人形を活用した演習）			
第3回 学校におけるアレルギー疾患への対応と展開（アクションカードの活用）			
第4回 安全管理の卓上訓練の実際（災害・事故）（エマルゴトレーニングの活用）			
第5回 安全管理と安全教育の事例研究			
第6回 安全管理と安全教育の事例の実際（ケースメソッド）			
第7回 安全管理の校内研修の課題作成			
第8回 リスクマネジメントの課題まとめ			
定期試験を実施しない			
テキスト			
必要に応じてプリントの配布を行う。			
参考書・参考資料等			
文部科学省：学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育（平成31年3月）			
文部科学省：学校事故対応に関する指針【改訂版】（令和6年3月）			
日本学校保健会：学校保健の動向（令和3年度版）			
学生に対する評価			
授業中の意欲・態度 50%、受講中に課すレポート等の課題 50%とし、総合的に評価する。			

授業科目名： 学校教育の役割と教員の 職能開発 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金川 舞貴子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ①これまで社会に対して学校が果たしてきた役割・機能を理解する。 ②現在求められている地域社会と学校の連携協働のあり方を理解する。			
授業の概要 明治以降の近代日本社会における学校及び学校教育の役割と位置づけについて、歴史的・制度的に理解するとともに、現代社会における学校教育の諸問題について考察する。まず教員による講義を主体として学校と教師に関する基礎的知識を学ぶ。これらの基礎的知識をもとに、学校現場における具体的な事例を取り上げ、教員と受講者全員によるディスカッションを通じて、実践的な理解を深める。			
授業計画 第1回 オリエンテーション、ディスカッション①「学校教育の課題」 第2回 社会における学校の役割 第3回 学校の歴史的・制度的変容 第4回 教師の専門性 歴史的変遷と近年の動向と将来の展望 第5回 課題・ディスカッション②「学校教育の社会的役割」 第6回 現代社会における学校教育の諸問題 第7回 学力格差の背景とその解決への課題 第8回 課題・ディスカッション③「学校教育と地域社会の関係と連携協働」			
テキスト テキストは指定しない。授業中に適宜、資料を配付する。			
参考書・参考資料等 グループ・ディダクティカ編（2012）『教師になること、教師であり続けること』勁草書房 山崎準二、高野和子、浜田博文編（2024）『「省察」を問い直す』学文社 コルトハーヘン編著（2001）『教師教育学』学文社			
学生に対する評価 課題レポートと授業への参画状況（グループワークやディスカッションへの積極的参加の程度）をもとに、目標への到達状況を協議し、総合的に評価する。			

授業科目名： 学校教育の役割と教員の 職能開発Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金川 舞貴子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ①現代社会の中で教師に求められている社会的な役割と職業倫理について体系的に理解する。 ②教師が職能成長を遂げる一般的な道筋と、その過程で克服すべき諸課題を理解する。			
授業の概要 現代社会において教師に求められている役割を教育法規の観点から理解するとともに、教師の職能成長について教育学的、心理学的、及び社会学的視点から統合的に学ぶ。まず教員による講義を主体として学校と教師に関する基礎的知識を学ぶ。次に、これらの基礎的知識をもとにして、学校現場における具体的な事例を取り上げて、より実践的に理解するために、教員と受講者全員による演習形態によるディスカッション法を用い、相互交流の活発な少人数指導を行う。			
授業計画 第1回 現代社会と学校教育 第2回 教育改革の展開と諸問題 第3回 教師の社会的役割 第4回 ディスカッション④「教師の社会的役割」 第5回 教師の職能開発 第6回 教師の成長の道筋—新任教師と中堅教師の成長とその課題 第7回 教師の成長を育む学校組織 第8回 ディスカッション⑤「教師の成長」			
テキスト テキストは指定しない。授業中に適宜、資料を配付する。			
参考書・参考資料等 グループ・ディダクティカ編（2012）『教師になること、教師であり続けること』勁草書房 山崎準二、高野和子、浜田博文編（2024）『「省察」を問い直す』学文社 コルトハーヘン編著（2001）『教師教育学』学文社			
学生に対する評価 課題レポートと授業への参画状況（グループワークやディスカッションへの積極的参加の程度）をもとに、目標への到達状況を協議し、総合的に評価する。			

授業科目名： 学校とコミュニティ I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 熊谷 慎之輔
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 生涯教育の視点から捉えた学校について理解する。</p> <p>② 学校・家庭・地域の連携・協働のあり方について理解する。</p> <p>③ 事例を通して、地域との連携構築能力を養う。</p>			
授業の概要			
「地域とともにある学校づくり」に向けての学校・家庭・地域の連携の構築に関して、生涯学習の観点から学習する。学校と地域が連携・協働した実践事例を検討し、課題を探究する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション・社会教育とは？			
第2回：生涯学習と学校教育			
第3回：学校に関わる大人たちの学び（成人学習論）			
第4回：学校と家庭（保護者）の連携のあり方 その1			
第5回：学校と家庭（保護者）の連携のあり方 その2			
第6回：地域と連携した学校づくりと教育行政			
第7回：地域と連携した学校づくりと学校経営			
第8回：これからの学校と地域～コミュニティ・スクールの実践から学ぶ			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・熊谷慎之輔・志々田まなみ・佐々木保孝・天野かおり『地域学校協働のデザインとマネジメント:コミュニティ・スクールと地域学校協働本部による学びあい・育ちあい』学文社、2021年。 ・熊谷慎之輔編『岡山発！地域学校協働の実践と協創的教員養成：「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて』福村出版、2023年。 ・授業中に適宜資料を配付する。 			
学生に対する評価			
授業における積極的な意欲・態度（40点）と、授業で作成した成果（60点）を総合的に評価する。			

授業科目名： 学校とコミュニティⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 熊谷 慎之輔 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 生涯教育の視点から捉えた学校について理解する。</p> <p>② 学校・家庭・地域の連携・協働のあり方について理解する。</p> <p>③ 事例や演習を通して、地域との連携構築能力を養う。</p>			
授業の概要			
「地域とともにある学校づくり」に向けての学校・家庭・地域の連携の構築に関して、生涯学習の観点から学習する。学校と地域が連携・協働した実践事例を検討し、課題を探究する。			
授業計画			
第1回：学校と地域の連携・融合論			
第2回：地域学校協働のデザインとマネジメントⅠ			
第3回：地域学校協働のデザインとマネジメントⅡ			
第4回：地域学校協働によるサービス・ラーニングの構想と手順：社会に開かれた教育課程の実現に向けて			
第5回：サービス・ラーニングの作成（演習）			
第6回：発表①			
第7回：発表②			
第8回：発表③・ふりかえりとまとめ			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等			
<ul style="list-style-type: none"> ・熊谷慎之輔・志々田まなみ・佐々木保孝・天野かおり『地域学校協働のデザインとマネジメント:コミュニティ・スクールと地域学校協働本部による学びあい・育ちあい』学文社、2021年。 ・熊谷慎之輔編『岡山発！地域学校協働の実践と協創的教員養成：「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて』福村出版、2023年。 ・授業中に適宜資料を配付する。 			
学生に対する評価			
授業における積極的な意欲・態度（40点）と、授業で作成した演習の成果（60点）を総合的に評価する。			

授業科目名： 特別支援教育における 授業づくりA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 吉利宗久、下中村武、岡田千 登勢
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 通常の学級や通級による指導、特別支援学級における自立活動の授業、あるいは自立活動の指導を取り入れた授業の設計・展開・評価の各過程での留意点を理解する。			
授業の概要 通常の学級や通級による指導、特別支援学級における自立活動の授業、あるいは自立活動の指導を取り入れた授業の設計・展開・評価の各過程での留意点について考察する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（吉利） 第2回：通常の学級における自立活動：基本的な考え方（吉利） 第3回：通常の学級における自立活動：授業の設計・展開・評価（下中村） 第4回：通級による指導における自立活動：基本的な考え方（下中村） 第5回：通級による指導における自立活動：授業の設計・展開・評価（下中村） 第6回：特別支援学級における自立活動：基本的な考え方（下中村） 第7回：特別支援学級における自立活動：授業の設計・展開・評価（下中村） 第8回：通常の学校における自立活動の課題（岡田・下中村） 期末試験は実施しない			
テキスト 授業で資料を配布する。			
参考書・参考資料等 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）同（高等部）			
学生に対する評価 小課題（30％）レポート課題（70％）			

授業科目名： 特別支援教育における 授業づくりB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐藤堯、岸哲志、高橋彩、大 竹喜久
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援学校の自立活動の授業、あるいは自立活動の指導を取り入れた授業の設計・展開・評価の各過程での留意点を理解する。			
授業の概要 特別支援学校の自立活動の授業、あるいは自立活動の指導を取り入れた授業の設計・展開・評価の各過程での留意点について考察する。			
授業計画 第1回：特別支援学校における自立活動の基本的な考え方（大竹） 第2回：自立活動の個別の指導計画（目標設定過程）（高橋） 第3回：自立活動の個別の指導計画（指導内容と指導場面の設定、実践と評価過程）（高橋） 第4回：各教科等の授業における自立活動の指導（佐藤） 第5回：自立活動の時間の指導の実際（知的障害）（高橋） 第6回：自立活動の時間の指導の実際（肢体不自由）（佐藤） 第7回：自立活動の時間の指導の実際（視覚障害）（岸） 第8回：特別支援学校における自立活動の課題（佐藤） 定期試験は実施しない			
テキスト 授業で資料を配布する。			
参考書・参考資料等 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）同（高等部）			
学生に対する評価 小課題（30％）レポート課題（70％）			

授業科目名： 特別支援教育コーディネーター実践論 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大守伊織、宮崎善郎、吉利宗久、高橋彩 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育推進の担い手である特別支援教育コーディネーターの役割や使命を理解し、学校現場で求められる具体的な支援内容や配慮すべき事項を自ら考え、校内外における支援に関する実践力の向上を図る。			
授業の概要 特別支援教育コーディネーターの役割や使命に関わる基本的事項を学習するとともに、教育現場で特別な支援を要する子どもの理解と支援方法に関する検討を行う。			
授業計画 第1回 オリエンテーション、特別支援教育の理念と制度 (吉利) 第2回 特別支援教育コーディネーターの役割と求められる資質 (吉利) 第3回 個別の指導計画と個別の支援計画の作成と活用 (宮崎) 第4回 校内支援体制の構築と課題 (宮崎) 第5回 保護者との連携の意義と課題 (大守) 第6回 関連機関との連携の意義と課題 (大守) 第7回 認知特性のアセスメント(WISC)意義と方法・解釈 (高橋) 第8回 認知特性のアセスメント(K-ABC)意義と方法・解釈 (高橋) 定期試験は実施しない			
テキスト 適宜、資料を配布する			
参考書・参考資料等 ・文部科学省「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～」(平成29年3月)			
学生に対する評価 受講態度(50%)、小課題(20%)、最終レポート課題(30%)により評価する。			

授業科目名： 特別支援教育コーディネーター実践論B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 佐藤 堯、岡田千登勢、岸哲志、 下中村武 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育推進の担い手である特別支援教育コーディネーターの役割や使命を理解し、学校現場で求められる具体的な支援内容や配慮すべき事項を自ら考え、校内外における支援に関する実践力の向上を図る。			
授業の概要 特別支援教育コーディネーターの役割や使命に関わる基本的事項を学習するとともに、教育現場で特別な支援を要する子どもの理解と支援方法に関する検討を行う。			
授業計画 第1回 行動アセスメントの方法 (岸) 第2回 行動アセスメントの解釈 (岸) 第3回 特別支援学校における特別支援教育コーディネーターの実践理論 (岡田・下中村) 第4回 特別支援学校におけるセンター的機能の実際 (岡田・下中村) 第5回 通常の学校における特別支援教育コーディネーターの実践理論 (下中村) 第6回 通常の学校における特別支援教育コーディネーターの実践上の課題 (下中村) 第7回 特別支援教育コーディネーター実践の到達点 (佐藤) 第8回 特別支援教育コーディネーター実践の課題 (佐藤) 定期試験は実施しない			
テキスト 適宜、資料を配布する			
参考書・参考資料等 ・文部科学省「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン～発達障害等の可能性の段階から、教育的ニーズに気づき、支え、つなぐために～」(平成29年3月)			
学生に対する評価 受講態度(50%)、ケースレポート・小課題(20%)、最終レポート課題(30%)により評価する。			

授業科目名： スクールリーダーと組織 開発A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金川 舞貴子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①学校マネジメント能力に対する理解の質を向上することができる。</p> <p>②地域・現任校の実態を踏まえ学校改善に資する人材育成のあり方を理解することができる。</p> <p>③「チーム学校」づくりの中核的な役割を担う人材としての資質や能力を「個として発達」させるとともに、「かかわりの中で発達」させ、自己または他者の資質能力の向上に寄与できる視点と視座を獲得することができる。</p> <p>④大学と学校現場とを往復しながらアクションリサーチを蓄積することで、理論知と実践知とを結びつけた学校組織マネジメント能力を計画的・体系的に高めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スクールリーダー（※）に求められるマネジメント能力は、「現場」が抱える多様な課題の解決に向けて、「状況に応じて」適切に対応する、学校改善の視点と視座を獲得し、学校経営自体を主体的に問い直す力であることを理解する。さらに、「チーム学校」づくりの中核的な役割をさまざまな立場で担い得る、学校組織マネジメント能力を計画的、体系的に形成することを目指し、「個としての発達」とともに、「かかわりの中での発達」を促すプログラムを提供し、省察を通して、探究過程の足跡を確かなものとする。</p> <p>（※ここで言う「スクールリーダー」については、それぞれの職能発達段階に応じた「初任期リーダー」、「ミドルリーダー」、「スクールリーダー」などを総称したものであり、一般的な「スクールリーダー」ではないことを注記する。）</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（「初任期リーダー」「ミドルリーダー」「学校リーダー」としての教師像） 知識基盤社会における学校教育</p> <p>第2回 社会状況の変化と教員に求められる資質・能力 スクールリーダーの職能成長を促すキャリア・デザイン</p> <p>第3回 スクールリーダーの職能成長を促すキャリア・デザイン(1)：学校教育の目的・目標 スクールリーダーの職能成長を促すキャリア・デザイン(2)：現任教・連携協力校の教育目標</p>			

第4回 コミュニティと学習

学習する組織と組織開発の手法

「教員としての資質能力、セルフマネジメント力の向上を目指した研修」実践(1)：教員としての使命感や責任感を育む（自分の強み・価値観を知る）

第5回 「教員としての資質能力、セルフマネジメント力の向上を目指した研修」実践(2)：同僚と協働する上で必要となるコミュニケーション能力を育む（仕事のやり方を理解する）

「教員としての資質能力、セルフマネジメント力の向上を目指した研修」実践(3)：学校全体を見通した活動を行う意識を育む（職場での地位・役割を得る）

第6回 「教員としての資質能力、セルフマネジメント力の向上を目指した研修」実践(4)：人材育成プランの立案－実施－評価－改善

【現職教員学生】指導的立場に立つ教員に求められるもの

【学部新卒学生】学校・地域から信頼される初任期リーダーになるために

第7回 【現職教員学生】リフレクションと評価

【学部新卒学生】リフレクションと評価

学校における教育課程編成の意味

第8回 スクールリーダーとしての教職員の資質・能力（まとめ）

定期試験を実施しない

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

- ・A. ハーグリーブス『知識社会の学校と教師：不安定な時代における教育』金子書房、2015年。
- ・E. シヤイン『キャリア・アンカー：自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房、2003年。
- ・金井壽宏『キャリア・デザイン・ガイド：自分のキャリアをうまく振り返り展望するために』白桃書房、2003年。

その他、適宜、指示・配布する。

学生に対する評価

授業の理解度及び授業への積極的・主体的参加（50%） 指導日誌・ワークシート・期末レポート（50%）

授業科目名： スクールリーダーと組織 開発B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金川 舞貴子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①学校マネジメント能力に対する理解の質を向上することができる。</p> <p>②地域・現任校の実態を踏まえ、学校改善に資する人材育成のあり方を理解することができる。</p> <p>③「チーム学校」づくりの中核的な役割を担う人材としての資質や能力について、「個として発達」させるとともに、「かかわりの中で発達」させ、自己または他者の資質能力の向上に寄与できる視点と視座を獲得することができる。</p> <p>④大学と学校現場とを往復しながらアクションリサーチを蓄積することで、理論知と実践知とを結びつけた学校組織マネジメント能力を計画的・体系的に高めることができる。</p>			
授業の概要			
<p>スクールリーダーに求められるマネジメント能力は、「現場」が抱える多様な課題の解決に向けて、「状況に応じて」適切に対応する、学校改善の視点と視座を獲得し、学校経営自体を主体的に問い直す力であることを理解する。さらに、「チーム学校」づくりの中核的な役割をさまざまな立場で担い得る、学校組織マネジメント能力を計画的、体系的に形成することを目指し、「個としての発達」とともに、「かかわりの中での発達」を促すプログラムを提供し、省察を通して、探究過程の足跡を確かなものとする。</p>			
授業計画			
<p>第1回 オリエンテーション（アクションリサーチャーとしての教師像） 新しい学習指導要領のねらいと特色</p> <p>第2回 授業分析の視点と学校マネジメント(1)：学校の教育目標 授業分析の視点と学校マネジメント(2)：学校の経営目標</p> <p>第3回 学校の教育目標・経営目標を踏まえた授業改善案 学校の教育目標・経営目標を踏まえた組織における教職員の役割</p> <p>第4回 【メンター】若手教員等に対する指導計画の立案 【メンティ】実践的指導力の向上と教員としてのセルフマネジメント能力の向上 【メンター】若手教員等に対する指導計画における教員像の明確化 【メンティ】課題解決実習の計画立案</p> <p>第5回 「スクールリーダー」を育成するメンター・メンティ研修(1)：授業実践に向けた学</p>			

	習指導案のポイント（グループ協議）
	【メンター】 教師力・学校力の向上を目指す指導助言
	【メンティ】 授業実践に向けた学習指導案の作成（個人）
第6回	【メンター】 参観授業への指導助言のあり方
	【メンティ】 授業実践に向けた学習指導案の作成（グループ協議）
	「スクールリーダー」を育成するメンター・メンティ研修(2)：授業実践に向けた学習指導案の検討
第7回	【メンター】 メンター実習の分析・指導（グループ協議）
	【メンティ】 課題解決実習の分析・指導（個人）
	【メンター】 メンター実習の分析・指導（カンファレンス）
	【メンティ】 課題解決実習の分析・指導（グループ協議）
第8回	研修の成果と課題
	スクールリーダーとしてのキャリア・デザイン（まとめ）
	定期試験を実施しない
	テキスト
	使用しない。（授業において、資料を配布する。）
	参考書・参考資料等
	岡山県教育委員会「令和6年度 教育施策の概要」（非売品）
	岡山県総合教育センター「学び続ける教員のためのOJTガイドブック『関わり合い』で創るすてきな学校」平成28年2月（非売品）
	岡山市教育委員会「岡山市教育振興基本計画 令和6年度アクションプラン」（非売品）
	岡山市教育委員会「教育に関する総合調査」（非売品）
	学生に対する評価
	授業の理解度、及び授業への積極的・主体的参加（50%）
	指導日誌、ワークシート、期末レポート（50%）

授業科目名： 学校経営戦略と評価A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金川 舞貴子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>自律的学校経営が求められるようになり、各学校は外部から与えられた基準に沿って管理・運営していくのではなく、自ら意思を持った学校づくりが求められている。そこで、本授業では、スクールリーダーとして、学校改善・改革に向けた学校の意思表示である「学校経営のグランドデザイン」を描く上で必要な理論的視座および実践力の基礎を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 岡山県の人材育成政策について理解を深め、自分のミッションを再意味づけする。 (より高次の目標：院生が所属する自治体間の政策を比較し、批判的に検討することで、課題や改善案を考えることができる／考えようとする) 2. 学校評価が導入された背景とその意義、基盤となる考え方と効果的な運用について、理論的・実践的に理解する。 3. 学校の経営戦略の意義とその策定について理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、2年間のカリキュラムのうち「課題分析」に位置づく授業である。そこで、「課題分析実習」と関連させながら、地域や現任校の課題析出、および自身のミッションや研究テーマの問い直し・明確化につながることを企図している。</p> <p>本授業では、わが国の学校経営改革、岡山県の教育政策動向を概説し、学校組織マネジメントの背景と基本的な考え方を理解する。また、学校経営戦略の考え方、また学校評価、教職員評価の考え方と仕組みを、文献購読、事例検討を通じて理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 現任校の学校紹介</p> <p>第2回 我が国の学校経営改革動向 岡山県の学校経営改革</p> <p>第3回 学校組織の分析視座 学校の組織力をどう捉えるか①理論</p> <p>第4回 学校の組織力をどう捉えるか②演習 学校組織開発の考え方～文献購読</p> <p>第5回 人材育成の戦略①～教職員評価の理論</p>			

人材育成の戦略②～教職員評価の実際

第6回 学校評価の目的・意義

岡山県の学校評価

第7回 学校の目標概念とその関係①理論的整理

学校の目標概念とその関係②事例検討

テキスト

授業において資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・篠原清昭編著『学校改善マネジメント』ミネルヴァ書房、2012年。
- ・加藤崇英・臼井智美編著『教育の制度と学校のマネジメント』時事通信出版局、2018年。
- ・末松裕基編著『教師のための教育学シリーズ4 学校経営論』学文社、2017年
- ・篠原清昭編著『スクールマネジメント-新しい学校経営の方法と実践-』ミネルヴァ書房、2006年。
- ・鈴木博毅『「超」入門 失敗の本質』ダイヤモンド社、
- ・小島弘道『学校づくりと学校経営（講座現代学校教育の高度化）』学文社、2016年。
- ・武井敦史『「ならず者」が学校を変える一場を活かした学校づくりのすすめ』教育開発研究所、2017年。

その他、適宜、配布あるいは紹介する。

学生に対する評価

授業への参加と貢献50%、レポート50%

授業科目名： 学校経営戦略と評価B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金川 舞貴子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>自律的学校経営が求められるようになり、各学校は外部から与えられた基準に沿って管理・運営していくのではなく、自ら意思を持った学校づくりが求められている。そこで、本授業では、スクールリーダーとして、学校改善・改革に向けた学校の意思表示である「学校経営のグランドデザイン」を描く上で必要な理論的視座および実践力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、「学校経営戦略と評価A」での学びをもとに、現任校の経営戦略（学校づくりのストーリー）、学校評価の現状と課題を具体的に設定・説明し、その改善策を考えることができることを求める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、現任校の学校経営戦略や学校評価について、現任校の学校管理職等との協議や院生同士の相互レビューを通じて、より本質的な課題を掴み、改善策を考えていく。</p> <p>なお、本授業は教職大学院のコアである「教職実践研究」「実習」と連動させている。よって、可能な限り本授業での課題を遂行できるよう実習計画（インタビュー等の実施や資料収集）を立てることを求める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 3年間を見通した学校づくり①文献講読</p> <p>第2回 3年間を見通した学校づくり②事例に基づくディスカッション 3年間を見通した学校づくり③自校の学校づくりの軌跡を物語る</p> <p>第3回 現任校の学校経営計画・学校評価の検討①現状分析～児童生徒～ 現任校の学校経営計画・学校評価の検討②現状分析～教職員・学校・地域～</p> <p>第4回 現任校の学校経営計画・学校評価の検討④ビジョン作成 現任校の学校経営計画・学校評価の検討⑤ビジョン発表</p> <p>第5回 現任校の学校経営計画・学校評価の検討⑥計画立案 現任校の学校経営計画・学校評価の検討⑦計画発表</p> <p>第6回 現任校の学校経営計画・学校評価の検討⑧評価 現任校の学校経営計画・学校評価の検討⑨評価方法の改善案発表</p> <p>第7回 現任校の学校経営計画・学校評価の検討⑩グランドデザイン作成</p>			

現任校の学校経営計画・学校評価の検討⑩グランドデザイン発表

テキスト

授業において資料を配布する。

参考書・参考資料等

- ・篠原清昭編著『学校改善マネジメント』ミネルヴァ書房、2012年。
- ・H・ミンツバーグ『MBAが会社を滅ぼす～マネジャーの正しい育て方』日経BP社、2006年。
- ・小島弘道『学校づくりの組織論』学文社、2011年。
- ・岡東壽隆監修『教育経営学の視点から教師・組織・地域・実践を考えるー子どものための教育の創造ー』北大路書房、2009年。
- ・曾余田浩史・曾余田順子「学校経営の目標概念群の構成と機能に関する事例分析（1）」中国四国教育学会『教育学研究紀要（CD-ROM版）』第59巻、2013年。
- ・曾余田浩史・曾余田順子「「学習する組織」を志向する学校経営の目標概念群の機能に関する一考察」中国四国教育学会『教育学研究紀要（CD-ROM版）』第61巻、2015年。

その他、適宜、配布あるいは紹介する。

学生に対する評価

- 1) 授業への参加と貢献（質問、発言、レジュメ作成・発表） 50%
- 2) レポート 50%

授業科目名： 教育法規の理論と実務演習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高瀬 淳
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>スクール・コンプライアンスの必要性を踏まえ、全体の奉仕者としての教職員の法的な位置づけを理解し、リーガルマインドをもって、学校経営への参画や学校改善に向けた取組に主体的・自律的に関わるために必要な資質・能力を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>国民の「教育を受ける権利」を保障する教育法規の意義について解説した上で、教職員をめぐる法的課題を発見・分析－解決・提案－探究・検証し、信頼される学校づくりを進めるための理論的・実践的な検討を行う。</p>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション（学校の「法化」現象） 社会状況の変化と信頼される学校づくり			
第2回 スクール・コンプライアンスの意義 アカウンタビリティとコンプライアンス			
第3回 法秩序の構成原理 教育の目的・目標と法(1)・・・日本国憲法における「教育を受ける権利・教育を受けさせる義務」の意味			
第4回 教育の目的・目標と法(2)・・・個人の尊厳と公共の精神 教育の目的・目標と法(3)・・・生涯学習社会における学校の位置づけ			
第5回 教職員の服務義務(1)・・・全体の奉仕者としての教員 教職員の服務義務(2)・・・職務上の義務（グループ協議）			
第6回 教職員の服務義務(3)・・・身分上の義務（グループ協議） 教職員の勤務時間管理（グループ協議）			
第7回 職員会議の法的性格（グループ協議） 校内分掌体制と主任の職務（グループ協議）			
第8回 教育委員会と学校 リーガルマインドマインドをもった教職員の姿（まとめ）			
定期試験を実施しない（課題レポート）			

テキスト

『2026年度版 必携教職六法』協同出版 2025年

参考書・参考資料等

日本スクール・コンプライアンス学会編『スクール・コンプライアンス研究の現在』教育開発研究所 2023年

学生に対する評価

レポート（70％）と授業中の意欲・態度（30％）で評価する。

授業科目名： 教育法規の理論と実務演 習B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高瀬 淳 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 スクール・コンプライアンスの必要性を踏まえ、全体の奉仕者としての教職員の法的な位置づ けを理解し、リーガルマインドをもって、学校経営への参画や学校改善に向けた取組に主体的 ・自律的に関わるために必要な資質・能力を身につける。			
授業の概要 国民の「教育を受ける権利」を保障する教育法規の意義について解説した上で、教職員をめぐる 法的課題を発見・分析－解決・提案－探究・検証し、信頼される学校づくりを進めるための 理論的・実践的な検討を行う。			
授業計画 第1回 オリエンテーション（学校の「法化」） 学校における刑事責任・民事責任・行政責任 第2回 児童生徒の不登校への対応 児童生徒の問題行動等への対応 第3回 いじめ問題への対応 携帯電話の校内持ち込みを禁止する校則の妥当性 第4回 児童虐待の発見通告と守秘義務にかかる問題 学校給食費未納問題への対応 第5回 学習指導要領の法的拘束性と基準性 教科書使用義務の意味 第6回 学校における著作権保護 学校における合理的配慮 第7回 学校保健計画の改善・充実 学校安全計画と危険等発生時対処要領 第8回 セーフティプロモーションの考え方に基づくセーフスクール 適切な学校経営を実現する教育法規（まとめ） 定期試験を実施しない（課題レポート）			

テキスト

『2026年度版 必携教職六法』協同出版 2025年

参考書・参考資料等

日本スクール・コンプライアンス学会編『スクール・コンプライアンス研究の現在』教育開発研究所 2023年

学生に対する評価

レポート（70%）と授業中の意欲・態度（30%）で評価する。

授業科目名： 学校改善と職能成長を導 く校内研修のデザインと マネジメントA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金川 舞貴子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営とその改善、人材育成ビジョンの中に校内研修を位置づけ、研修の企画・運営・評価を考えることができる。 ・校内研修の中長期的な連続性や発展性を考えることができる。 ・校内研修の推進やコミュニケーションをデザインし、マネジメントすることができる。 			
授業の概要			
学校改善と職能成長に向かう校内研修を企画・運営する上で必要となる考え方についての理論的検討・事例検討を行う。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 校内研修の教育行政上の位置づけと教育委員会・指導主事の役割			
第2回 教師教育の動向，校内研修の位置づけ 教員育成指標に関する国際動向と理論的検討			
第3回 岡山県の教員育成指標 OJTとOff-JTの現職研修，現職研修カリキュラム			
第4回 職能成長に関する諸理論①成人学習論 職能成長に関する諸理論②専門職学習論			
第5回 校内研修のデザイン：目的の設定、テーマ設定 校内研修のデザイン：研修評価の方法			
第6回 校内研修のデザイン：協議会の持ち方 校内研修のデザイン：コミュニケーションデザイン			
第7回 校内研修とその評価，改善策の検討 校内研修とその評価，改善策の発表			
定期試験は実施しない			
テキスト			
・教員等育成指標（岡山県・岡山市）			

・岡山県教育振興基本計画、アクションプラン（岡山県・岡山市）

参考書・参考資料等

- ・秋田喜代美編著『教育研究のメソドロジー—学校参加型マインドへのいざない』東京大学出版会、2005年。
- ・秋田喜代美、藤江康彦『これからの教師研究—20の事例にみる教師研究方法論』東京図書、2021年。
- ・中原淳『研修開発入門：会社で「教える」、競争優位を「つくる」』ダイヤモンド社、2014年。
- ・中原淳『研修開発入門「研修転移」の理論と実践』ダイヤモンド社、2018年。
- ・中原淳『研修開発入門「研修評価」の教科書「数字」と「物語」で経営・現場を変える』ダイヤモンド社、2022年。
- ・澤井陽介『入門 校内研究のつくり方—教師自らが共に学ぶ主体的・対話的で深い研究を実現する！』東洋館出版社、2024年。

その他、授業中に適宜、指示・配布する。

学生に対する評価

- ・課題レポートとグループワークでの発表をもとにして目標に対する到達状況を協議し、評価する（60%）
- ・授業に対する積極的な参画状況について協議し、評価する（40%）

授業科目名： 学校改善と職能成長を導 く校内研修のデザインと マネジメントB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金川 舞貴子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・国・地方自治体の人材育成ビジョンの中に校内研修を位置づけ、研修の企画・運営・評価を 考えることができる。 ・校内研修の中・長期的な連続性や発展性を考えることができる。 ・校内研修の推進やコミュニケーションをデザインし、マネジメントすることができる。 			
授業の概要			
学校改善と職能成長に向かう校内研修を企画・運営する上で必要となる考え方についての理論 的検討・事例検討を行う。			
授業計画			
第1回 指導主事の役割とコンサルテーション（フィールドワーク：市教育研究研修センター との連携）：指導主事の役割と研修プログラムの開発 指導主事の役割とコンサルテーション（フィールドワーク：市教育研究研修センター との連携）：岡山市教育研究研修センター主催「総合的ミドル研修講座」への参加			
第2回 主任職の役割とメンタリング（フィールドワーク：現任教・実習校での観察） 主任職の役割とメンタリング（フィールドワーク：現任教・実習校での観察）			
第3回 リーダーによる校内メンタリングの実際 メンタリング、ファシリ、コーチング、コンサルの実践（フィールドワーク：P2+現 職→P1サポート）：指導計画の立案			
第4回 メンタリング、ファシリ、コーチング、コンサルの実践（フィールドワーク：P2+現 職→P1サポート）：P1学生の授業開発支援や実習校での授業観察・協議の支援① メンタリング、ファシリ、コーチング、コンサルの実践（フィールドワーク：P2+現 職→P1サポート）：カンファレンス①			
第5回 メンタリング、ファシリ、コーチング、コンサルの実践（フィールドワーク：P2+現 職→P1サポート）：P1学生の授業開発支援や実習校での授業観察・協議の支援② メンタリング、ファシリ、コーチング、コンサルの実践（フィールドワーク：P2+現 職→P1サポート）：カンファレンス②			

- 第6回 勤務校の校内研修改革プランの立案・ディスカッション～前半グループの発表～
勤務校の校内研修改革プランの立案・ディスカッション～後半グループの発表～
- 第7回 勤務校の校内研修改革プランの立案・ディスカッション～ブラッシュアップ～
＜最終課題＞勤務校の校内研修改革プランの発表

テキスト

- ・教員等育成指標（岡山県・岡山市）
- ・岡山県教育振興基本計画、アクションプラン（岡山県・岡山市）

参考書・参考資料等

- ・E. シャイン『プロセス・コンサルテーション—援助関係を築くこと』白桃書房、2012年。
- ・秋田喜代美、藤江康彦『これからの教師研究—20の事例にみる教師研究方法論』東京図書、2021年。
- ・中原淳『研修開発入門：会社で「教える」、競争優位を「つくる」』ダイヤモンド社、2014年。
- ・中原淳『研修開発入門「研修転移」の理論と実践』ダイヤモンド社、2018年。
- ・中原淳『研修開発入門「研修評価」の教科書「数字」と「物語」で経営・現場を変える』ダイヤモンド社、2022年。

授業中に適宜、指示・配布する。

学生に対する評価

- ・課題レポートとグループワークでの発表をもとにして目標に対する到達状況を協議し、評価する（60%）
- ・授業に対する積極的な参画状況について協議し、評価する（40%）

授業科目名： 教育実践演習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 6単位	担当教員名： 高瀬 淳
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現職教員学生を主たる対象として、岡山県や各市町村等の教育をリードし、勤務校の中核となる「次世代リーダー」に必要な高度教育実践力を備えたアクション・リサーチャーに求められる資質・能力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「次世代リーダー」に必要な教育観、学校組織マネジメント、カリキュラムマネジメント、学校改善の手法などについて、主として岡山県の教育を題材としながら理解を深める。特に、岡山県の課題に即した教育事業を少人数のグループで立案するプロジェクト研究により、教育現場が抱える課題を発見・分析－解決・提案－探究・検証する学修プロセスを伴う研究的視座に立った活動を協働的に実施し、自他の実践を一般化・理論化し、学校・地域の継続的な改善を進めるための理論的・実践的な学修を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（期待される「次世代リーダー」の姿） 学校づくり・地域づくりの主体としての教職職員</p> <p>第2回 データでみる岡山県の教育 岡山県の教育の現状と課題（グループ協議）</p> <p>第3回 日本における教育政策の動向(1)・・・チームとしての学校づくり 日本における教育政策の動向(2)・・・地域協働による学校づくり</p> <p>第4回 日本における教育政策の動向(3)・・・教職員の資質向上を促す学校づくり 日本における教育政策の動向(4)・・・知識基盤社会における学力観</p> <p>第5回 教職員のセルフマネジメント 自己成長のマネジメント(1)・・・これまでの取組の振り返り</p> <p>第6回 プロジェクト研究(1)・・・岡山県の教育施策の特色 プロジェクト研究(2)・・・岡山県のアクションプランの内容</p> <p>第7回 プロジェクト研究(3)・・・現任校・地域の現状と課題（グループ協議） プロジェクト研究(4)・・・現任校・地域と岡山県のアクションプラン（グループ協議）</p>			

- 第8回 教職員の研究と修養(1)・・・教職生活を通じた学び続ける教員像の確立
教職員の研究と修養(2)・・・教育実践研究の方法①（アクションリサーチのねらいと方法）
- 第9回 教職員の研究と修養(3)・・・教育実践研究の方法②（量的分析・質的分析のねらいと方法）
教職員の研究と修養(4)・・・教育実践研究の方法③（各教科の授業分析のねらいと方法）
- 第10回 教職員の研究と修養(5)・・・学校のアカウンタビリティと研究
教職員の研究と修養(6)・・・教職員の自己研修の必要性
- 第11回 研修講座の講師の役割(1)・・・模擬研修講座の立案
研修講座の講師の役割(2)・・・模擬研修講座の検討
- 第12回 研修講座の講師の役割(3)・・・模擬研修講座の実施
研修講座の講師の役割(4)・・・模擬研修講座の振り返りと改善
- 第13回 リーダーシップ論(1)・・・変革型リーダーシップ
リーダーシップ論(2)・・・交流型リーダーシップ
- 第14回 リーダーシップ論(3)・・・サーバント・リーダーシップ
リーダーシップ論(4)・・・分散型リーダーシップ
- 第15回 リーダーシップ論(5)・・・「仕事」としてのリーダーシップ
リーダーシップ論(6)・・・実践的リーダーシップの開発
- 第16回 プロジェクト研究(5)・・・岡山県における教育事業の立案①（データ収集）
プロジェクト研究(6)・・・岡山県における教育事業の立案②（現状分析）
- 第17回 教育法規(1)・・・信頼される学校づくりにむけたコンプライアンス
教育法規(2)・・・日本国憲法における「教育を受ける権利」の意義
- 第18回 教育法規(3)・・・教育基本法の趣旨と内容
教育法規(4)・・・近年の教育課題と学校教育法
- 第19回 教育法規(5)・・・いじめ防止対策推進法の趣旨と内容
教育法規(6)・・・いじめ防止対策推進法に基づく学校の対応（グループ協議）
- 第20回 教育法規(7)・・・学校保健安全法の趣旨と内容
教育法規(8)・・・著作権法並びに児童虐待防止法の趣旨と内容
- 第21回 プロジェクト研究(7)・・・岡山県における教育事業の立案③（課題把握）
プロジェクト研究(8)・・・岡山県における教育事業の立案④（課題設定）
- 第22回 学校組織マネジメント(1)・・・学校の教育目標と経営目標
学校組織マネジメント(2)・・・戦略と戦術
- 第23回 学校組織マネジメント(3)・・・ビジョンの設定とミドルリーダーの働きかけ

	学校組織マネジメント(4)・・・現任校を取り巻く内外環境の分析①(児童生徒・教職員)
第24回	学校組織マネジメント(5)・・・現任校を取り巻く内外環境の分析②(保護者・地域住民) 学校組織マネジメント(6)・・・現任校を取り巻く内外環境の分析③(SWOT分析の意味と限界)
第25回	学校組織マネジメント(7)・・・現任校の校務組織の見直し 学校組織マネジメント(8)・・・PDCAサイクルに基づく学校改善
第26回	学校経営計画書の基本構造 学校経営計画書の検討と改善案の作成(グループ協議)
第27回	プロジェクト研究(9)・・・岡山県における教育事業の立案⑤(解決策の策定) プロジェクト研究(10)・・・岡山県における教育事業の立案⑥(解決策の検討)
第28回	カリキュラムマネジメント(1)・・・学校教育目標とカリキュラム カリキュラムマネジメント(2)・・・教育内容・方法の相関性
第29回	カリキュラムマネジメント(3)・・・PDCAサイクルに基づくカリキュラムの改善 カリキュラムマネジメント(4)・・・学校経営目標とカリキュラム
第30回	カリキュラムマネジメント(5)・・・教育内容・方法と条件整備 カリキュラムマネジメント(6)・・・「次世代リーダー」とカリキュラムマネジメント
第31回	プロジェクト研究(11)・・・岡山県における教育事業の立案⑦(教育事業案の決定) プロジェクト研究(12)・・・岡山県における教育事業の立案⑧(プレゼン資料の作成)
第32回	リスクマネジメント(1)・・・学校安全計画と学校保健計画の改善・充実 リスクマネジメント(2)・・・学校事故への対応と再発防止策
第33回	リスクマネジメント(3)・・・安全計画・安全教育に関する教職員の校内研修 リスクマネジメント(4)・・・保護者・地域住民と連携した安全計画・安全教育
第34回	リスクマネジメント(5)・・・危険等発生時対処要領の見直し リスクマネジメント(6)・・・学校危機管理の実際(記者会見演習)
第35回	プロジェクト研究(13)・・・岡山県における教育事業の立案⑨(中間発表) プロジェクト研究(14)・・・岡山県における教育事業の立案⑩(中間発表の振り返り)
第36回	プロジェクト研究(15)・・・岡山県における教育事業の策定(教育事業案の検証) プロジェクト研究(16)・・・岡山県における教育事業の修正(教育事業案の探究)
第37回	学校評価(1)・・・学校評価の意味 学校評価(2)・・・現任校における学校評価体制の確認
第38回	学校評価(3)・・・現任校における自己評価書の見直し

	学校評価(4)・・・現任校における自己評価書の問題点・改善点（グループ協議）
第39回	学校評価(5)・・・学校関係者評価・専門評価の意味 学校評価(6)・・・学校のマネジメントサイクルに基づいた学校評価
第40回	教職員のメンタルヘルス (1)・・・日本並びに岡山県における現状と背景 教職員のメンタルヘルス (2)・・・職場におけるメンタルヘルス対策
第41回	教職員のメンタルヘルス (3)・・・教育委員会によるメンタルヘルス対策 教職員のメンタルヘルス (4)・・・効果測定
第42回	生徒指導上の諸問題(1)・・・児童生徒の問題行動等の現状 生徒指導上の諸問題(2)・・・現任校における児童生徒の問題行動等への対応
第43回	生徒指導上の諸問題(3)・・・現任校における対応の問題点・改善点(グループ協議) 生徒指導上の諸問題(4)・・・保護者・地域住民及び関係諸機関との連携（グループ協議）
第44回	特別支援教育の諸問題(1)・・・特別な支援を必要とする児童生徒の現状 特別支援教育の諸問題(2)・・・現任校における特別な支援を必要とする児童生徒への対応
第45回	特別支援教育の諸問題(3)・・・現任校における対応の問題点・改善点（グループ協議） 特別支援教育の諸問題(4)・・・保護者・地域住民及び関係諸機関との連携（グループ協議）
第46回	プロジェクト研究(17)・・・教育事業の提案（最終発表） プロジェクト研究(18)・・・教育事業の立案過程の振り返り
第47回	自己成長のマネジメント(2)・・・今後の具体的な取組 岡山県の教育と「次世代リーダー」の役割（まとめ）
	定期試験を実施しない
	テキスト 使用しない
	参考書・参考資料等 第3次岡山県教育振興基本計画 2021年 岡山県の教育 2024年 吉富芳正・村川雅弘・田村知子・石塚等・倉見昇一『これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい 2020年 日本スクール・コンプライアンス学会編『スクール・コンプライアンス研究の現在』教育開発研究所 2023年 『2026年度版 必携教職六法』協同出版 2025年

学生に対する評価

プロジェクト研究最終発表（50%）、授業中の小レポート（20%）、授業中の意欲（30%）で評価する。

授業科目名： 教育実践演習B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 高瀬 淳
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現職教員学生を主たる対象として、学習指導要領の趣旨、国・岡山県の教育動向等を理解し、確かな学力を身につけさせるための指導力を定着するとともに、学習指導案、参観授業等についての的確な指導・助言ができるようにすることにより、教科指導におけるミドルリーダーに必要な高度教育実践力を備えたアクション・リサーチに求められる資質・能力を身につける</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教科指導におけるミドルリーダーに必要な、学習指導要領、カリキュラムマネジメント、授業改善の留意的・手法などについて理解を深める。特に、実際に現任校における授業実践に向けた学習指導案を少人数のグループで立案－実施－評価－改善する課題研究により、研究的視座に立った授業の改善プロセスを伴う活動を協働的に行い、自他の実践を一般化・理論化し、他教科とのつながりや系統性を踏まえた質の高い授業を行うだけでなく、適切な指導助言を通して、学校全体の授業力向上を図るための理論的・実践的な学修を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（期待されるミドルリーダーの姿） 学校づくり・地域づくりの主体としての教職職員</p> <p>第2回 データでみる岡山県の教育 岡山県の教育の現状と課題（グループ協議）</p> <p>第3回 日本における教育政策の動向(1)・・・チームとしての学校づくり 日本における教育政策の動向(2)・・・地域協働による学校づくり</p> <p>第4回 日本における教育政策の動向(3)・・・教職員の資質向上を促す学校づくり 日本における教育政策の動向(4)・・・知識基盤社会における学力観</p> <p>第5回 「教科指導ミドルリーダー」に求められる資質・能力 自己成長のマネジメント(1)・・・教科指導力・授業力の向上に取り組んできたことの振り返り</p> <p>第6回 学習指導要領のねらいと特色(1)・・・「主体的・対話的で深い学び」の意味 学習指導要領のねらいと特色(2)・・・「カリキュラムマネジメント」の意味</p> <p>第7回 課題研究(1)・・・研究課題とその進め方</p>			

- 授業づくりの留意点(1)・・・学習指導案作成の視点
- 第8回 校内研究の企画・運営のあり方(1)・・・学校の教育目標との関係
校内研究の企画・運営のあり方(2)・・・研究主任の役割
- 第9回 校内研究の企画・運営のあり方(3)・・・学習する組織としての教職員集団
校内研究の企画・運営のあり方(4)・・・学校の組織文化としての校内研究
- 第10回 課題研究(2)・・・模擬授業に向けた学習指導案①(共通題材からの選択)
課題研究(3)・・・模擬授業に向けた学習指導案②(共通題材による作成)
- 第11回 課題研究(4)・・・模擬授業に向けた学習指導案③(学習指導案の検討)
課題研究(5)・・・模擬授業に向けた学習指導案④(学習指導案の策定)
- 第12回 授業づくりの留意点(2)・・・特別支援教育の視点
授業づくりの留意点(3)・・・情報活用能力の育成と教育の情報化
- 第13回 学校組織マネジメント(1)・・・学校の教育目標と経営目標
学校組織マネジメント(2)・・・現任校を取り巻く内外環境の分析①(児童生徒・教職員)
- 第14回 学校組織マネジメント(3)・・・現任校を取り巻く内外環境の分析②(保護者・地域住民)
学校組織マネジメント(4)・・・現任校を取り巻く内外環境の分析③(SWOT分析の意味と限界)
- 第15回 授業づくりの留意点(4)・・・模擬授業の実施
授業づくりの留意点(5)・・・模擬授業に対する協議
- 第16回 リーダーシップ論(1)・・・「仕事」としてのリーダーシップ
リーダーシップ論(2)・・・教科指導にかかるリーダーシップ
- 第17回 同僚教員に対する指導助言のあり方(1)・・・教師力・学校力の向上を目指す指導助言
同僚教員に対する指導助言のあり方(2)・・・参観授業への指導助言(授業DVD視聴)
- 第18回 同僚教員に対する指導助言のあり方(3)・・・参観授業への指導助言の検討(グループ協議)
課題研究(6)・・・授業実践に向けた学習指導案の検討①(題材の選択)
- 第19回 課題研究(7)・・・授業実践に向けた学習指導案の検討②(題材の決定)
課題研究(8)・・・授業実践に向けた学習指導案の作成
- 第20回 カリキュラムマネジメント(1)・・・学校教育目標とカリキュラム
カリキュラムマネジメント(2)・・・教育内容・方法の相関性
- 第21回 カリキュラムマネジメント(3)・・・PDCAサイクルに基づくカリキュラムの改善
カリキュラムマネジメント(4)・・・学校経営目標とカリキュラム

第22回	カリキュラムマネジメント(5)・・・教育内容・方法と条件整備 カリキュラムマネジメント(6)・・・ミドルリーダーとカリキュラムマネジメント
第23回	課題研究(9)・・・授業実践に向けた学習指導案の検討③(グループ協議) 課題研究(10)・・・授業実践に向けた学習指導案の検討④(学習指導案の決定)
第24回	課題研究(11)・・・授業実践(ビデオ撮影) 課題研究(12)・・・授業実践の振り返り
第25回	同僚教員に対する指導助言のあり方(4)・・・授業実践ビデオ視聴 同僚教員に対する指導助言のあり方(5)・・・授業実践への指導助言の検討(グループ協議)
第26回	同僚教員に対する指導助言のあり方(6)・・・動画を活用した授業改善 同僚教員に対する指導助言のあり方(7)・・・動画を活用した授業改善(協議・検討)
第27回	課題研究(13)・・・改善学習指導案の作成 課題研究(14)・・・研究発表の準備(プレゼン資料作成)
第28回	リスクマネジメント(1)・・・安全計画・安全教育に関する教職員の校内研修 リスクマネジメント(2)・・・保護者・地域住民と連携した安全計画・安全教育
第29回	学校評価(1)・・・現任校における自己評価書の見直し 学校評価(2)・・・教科指導力・授業力の向上に資する学校評価のあり方(グループ協議)
第30回	課題研究(15)・・・研究発表 課題研究(16)・・・研究発表に対する検討会(指導・講評)
第31回	自己成長のマネジメント(2)・・・今後の具体的な取組 岡山県の教育とミドルリーダーの役割(まとめ)
定期試験を実施しない	
テキスト 使用しない	
参考書・参考資料等 吉富芳正・村川雅弘・田村知子・石塚等・倉見昇一『これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい 2020年	
学生に対する評価 課題研究発表(50%)、授業中の小レポート(20%)、授業中の意欲(30%)で評価する。	

授業科目名： 教育実践演習C	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 高瀬 淳
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「総合的ミドルリーダー」に必要な教育観、学校組織マネジメント、カリキュラムマネジメント、学校改善の手法などについて、主として岡山市の教育を題材としながら理解を深める。特に、実際に岡山市の課題に即した地域協働学校（コミュニティスクール）の改善事業を少人数のグループで立案するプロジェクト研究により、教育現場が抱える課題を発見・分析－解決・提案－探究・検証する学修プロセスを伴う研究的視座に立った活動を協働的に行い、自他の実践を一般化・理論化し、学校・地域の継続的な改善を進めるための理論的・実践的な学修を行う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現職教員学生を主たる対象として、地域の教育をリードし、勤務校の中核となる「総合的ミドルリーダー」に必要な高度教育実践力を備えたアクション・リサーチに求められる資質・能力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（学校におけるミドルリーダーの役割） 学校づくり・地域づくりの主体としての教職職員</p> <p>第2回 データでみる岡山県・岡山市の教育 岡山県・岡山市の教育の現状と課題（グループ協議）</p> <p>第3回 日本における教育政策の動向(1)・・・チームとしての学校づくり 日本における教育政策の動向(2)・・・地域協働による学校づくり</p> <p>第4回 日本における教育政策の動向(3)・・・教職員の資質向上を促す学校づくり 日本における教育政策の動向(4)・・・知識基盤社会における学力観の転換</p> <p>第5回 教職員のセルフマネジメント 自己成長のマネジメント(1)・・・これまでの取組の振り返り</p> <p>第6回 プロジェクト研究(1)・・・岡山市の教育施策の特色 プロジェクト研究(2)・・・地域協働学校に関する改善事業の立案（現状分析・課題設定）</p> <p>第7回 プロジェクト研究(3)・・・現任教・地域の現状と課題（グループ協議）</p>			

	プロジェクト研究(4)・・・現任校・地域のアクションプラン（グループ協議）
第8回	教職員の研究と修養(1)・・・教職生活を通じた学び続ける教員像の確立 教職員の研究と修養(2)・・・教育実践研究の方法①（アクションリサーチのねらいと方法）
第9回	教職員の研究と修養(3)・・・教育実践研究の方法②（量的分析・質的分析のねらいと方法） 教職員の研究と修養(4)・・・教育実践研究の方法③（各教科の授業分析のねらいと方法）
第10回	教職員の研究と修養(5)・・・学校のアカウントビリティと研究 教職員の研究と修養(6)・・・教職員の自己研修の必要性
第11回	学校組織マネジメント(1)・・・学校の教育目標と経営目標 学校組織マネジメント(2)・・・戦略と戦術
第12回	学校組織マネジメント(3)・・・ビジョンの設定とミドルリーダーの働きかけ 学校組織マネジメント(4)・・・現任校を取り巻く内外環境の分析①（児童生徒・教職員）
第13回	学校組織マネジメント(5)・・・現任校を取り巻く内外環境の分析②（保護者・地域住民） 学校組織マネジメント(6)・・・現任校を取り巻く内外環境の分析③（SWOT分析の意味と限界）
第14回	学校組織マネジメント(7)・・・現任校の校務組織の見直し 学校組織マネジメント(8)・・・PDCAサイクルに基づく学校改善
第15回	学校経営計画書の基本構造 学校経営計画書の検討と改善案の作成
第16回	プロジェクト研究(5)・・・地域協働学校に関する改善事業の立案①（データ収集） プロジェクト研究(6)・・・地域協働学校に関する改善事業の立案②（現状分析）
第17回	プロジェクト研究(7)・・・地域協働学校に関する改善事業の立案③（改善事業案の決定） プロジェクト研究(8)・・・地域協働学校に関する改善事業の立案④（プレゼン資料の作成）
第18回	カリキュラムマネジメント(1)・・・学校教育目標とカリキュラム カリキュラムマネジメント(2)・・・教育内容・方法の相関性
第19回	カリキュラムマネジメント(3)・・・PDCAサイクルに基づくカリキュラムの改善 カリキュラムマネジメント(4)・・・学校経営目標とカリキュラム
第20回	カリキュラムマネジメント(5)・・・教育内容・方法と条件整備

	カリキュラムマネジメント(6)・・・「総合的ミドルリーダー」とカリキュラムマネジメント
第21回	プロジェクト研究(9)・・・地域協働学校に関する改善事業の立案③(中間発表) プロジェクト研究(10)・・・地域協働学校に関する改善事業の立案④(中間発表の振り返り)
第22回	リスクマネジメント(1)・・・学校安全計画と学校保健計画の改善・充実 リスクマネジメント(2)・・・学校事故への対応と再発防止策
第23回	リスクマネジメント(3)・・・安全計画・安全教育に関する教職員の校内研修 リスクマネジメント(4)・・・保護者・地域住民と連携した安全計画・安全教育
第24回	リスクマネジメント(5)・・・危険等発生時対処要領の見直し リスクマネジメント(6)・・・学校危機管理の実際(記者会見演習)
第25回	プロジェクト研究(11)・・・地域協働学校に関する改善事業の策定(改善事業案の検証) プロジェクト研究(12)・・・地域協働学校に関する改善事業の修正(改善事業案の探究)
第26回	教職員のメンタルヘルス(1)・・・職場におけるメンタルヘルス対策 教職員のメンタルヘルス(2)・・・教育委員会によるメンタルヘルス対策
第27回	生徒指導上の諸問題(1)・・・児童生徒の問題行動等の現状 生徒指導上の諸問題(2)・・・現任校における児童生徒の問題行動等への対応
第28回	生徒指導上の諸問題(3)・・・現任校における対応の問題点・改善点(グループ協議) 特別支援教育の諸問題(1)・・・特別な支援を必要とする児童生徒の現状
第29回	特別支援教育の諸問題(2)・・・現任校における特別な支援を必要とする児童生徒への対応 特別支援教育の諸問題(3)・・・現任校における対応の問題点・改善点(グループ協議)
第30回	プロジェクト研究(13)・・・コミュニティスクールに関する改善事業の提案 プロジェクト研究(14)・・・改善事業の立案過程の振り返り
第31回	自己成長のマネジメント(2)・・・今後の具体的な取組 「総合的ミドルリーダー」の役割(まとめ)
	定期試験を実施しない
	テキスト 使用しない
	参考書・参考資料等
	第2期岡山市教育大綱 2021年

吉富芳正・村川雅弘・田村知子・石塚等・倉見昇一『これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい 2020年

日本スクール・コンプライアンス学会編『スクール・コンプライアンス研究の現在』教育開発研究所 2023年

『2026年度版 必携教職六法』協同出版 2025年

学生に対する評価

プロジェクト研究最終発表（50%）、授業中の小レポート（20%）、授業中の意欲（30%）で評価する。

授業科目名： 教育実践演習D	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高瀬 淳
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>若手教員と先輩教員が関わり合いながら共に育つ校内チーム制によるOJT型研修について理解し、教職生活全体と通じて学び続ける教員として、授業、教育課程、校内研究及び学校組織等の改善に向けた理論的・実践的な取組により、初任期リーダー又はミドルリーダーに必要な高度教育実践力を備えたアクション・リサーチャーに求められる資質・能力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>初任期リーダー又はミドルリーダーに必要な、学習指導要領、カリキュラムマネジメント、授業改善・校内研究及び学校運営の留意点・手法などについて理解を深める。特に、一定の教職経験を有する現職教員学生（メンター）と学部新卒学生（メンティ）がチームとなり、教科指導や学級経営等の改善に向けた取組（実習等）を協働的に進めることにより、自他の実践を一般化・理論化し、他教科とのつながりや系統性を踏まえた質の高い授業の実現や、適切な指導助言を通して、学校力向上を図るための理論的・実践的な学修を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（OJT研修の意義と課題） 自己成長のマネジメント(1)・・・自己課題の設定</p> <p>第2回 学校を取り巻く内外環境の変化 【メンター】チームとしての学校づくりの必要性 【メンティ】設定した自己課題の確認（グループ協議）</p> <p>第3回 教職員の資質向上を促す学校づくり 社会に開かれた教育課程の編成</p> <p>第4回 知識基盤社会における学力観 【メンター】「教科指導ミドルリーダー」に求められる資質・能力 【メンティ】初任期の教員に求められる資質・能力</p> <p>第5回 自己成長のマネジメント(2)・・・教科指導力・授業力の向上に取り組んできたことの振り返り 学習指導要領のねらいと特色(1)・・・「主体的・対話的で深い学び」の意味</p> <p>第6回 学習指導要領のねらいと特色(2)・・・「カリキュラムマネジメント」の意味</p>			

	<p>課題研究(1)・・・研究課題とその進め方</p> <p>第7回 授業づくりの留意点(1)・・・学習指導案作成の視点 校内研究の企画・運営のあり方</p> <p>第8回 課題研究(2)・・・授業実践に向けた学習指導案の検討①(題材の選択) 課題研究(3)・・・授業実践に向けた学習指導案の検討②(題材の決定)</p> <p>第9回 授業づくりの留意点(2)・・・特別支援教育の視点 授業づくりの留意点(3)・・・情報活用能力の育成と教育の情報化</p> <p>第10回 新学習指導案のねらいと特色(3)・・・教科を学ぶ意義 【メンター】学校組織マネジメント(学校の教育目標と経営目標) 【メンティ】授業実践に向けた学習指導案のポイント(グループ協議)</p> <p>第11回 課題研究(4)・・・授業実践に向けた学習指導案の作成 【メンター】教師力・学校力の向上を目指す指導助言 【メンティ】授業実践に向けた学習指導案の作成(個人)</p> <p>第12回 【メンター】参観授業への指導助言(授業DVD視聴) 【メンティ】授業実践に向けた学習指導案の作成(個人)</p> <p>課題研究(5)・・・授業実践に向けた学習指導案の検討</p> <p>第13回 カリキュラムマネジメント(1)・・・学校教育目標とカリキュラム カリキュラムマネジメント(2)・・・教育内容・方法の相関性</p> <p>第14回 カリキュラムマネジメント(3)・・・教育内容・方法と条件整備 カリキュラムマネジメント(4)・・・カリキュラムの改善の条件</p> <p>第15回 課題研究(6)・・・授業実践(ビデオ撮影) 課題研究(7)・・・授業実践の振り返り</p> <p>第16回 動画を活用した授業改善(ビデオ視聴) 動画を活用した授業改善(協議・検討)</p> <p>第17回 課題研究(8)・・・研究発表 課題研究(9)・・・研究発表に対する検討会(指導・講評)</p> <p>第18回 自己成長のマネジメント(3)・・・今後の具体的な取組 学校における初任期リーダー・ミドルリーダーの役割(まとめ)</p> <p>定期試験を実施しない</p>
	<p>テキスト</p> <p>使用しない</p>
	<p>参考書・参考資料等</p> <p>吉富芳正・村川雅弘・田村知子・石塚等・倉見昇一『これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい 2020年</p>

学生に対する評価

課題研究発表（50%）、授業中の小レポート（20%）、授業中の意欲（30%）で評価する。

授業科目名： 教材開発と授業デザイン I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮本 浩治 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材分析，教材開発の理論を習得し，具体の授業と結びつけ，批判的に検討できる。 ・学習に関する理論を習得し，授業の具体例と結びつけ，批判的に検討できる。 ・主体的・能動的な学習を実現するための方法について学び，授業の具体例と結びつけて考えることができる。 ・授業づくりに関するさまざまな理論を批判的に検討し，教員としての力量形成や教員研修の場づくりに役立てられるようになる。 ・主体的・能動的な学習を実現するための方法について学び，自らの実践を相対化すると共に，新たな授業の可能性を考案できるようになる 			
<p>授業の概要</p> <p>授業は，こうすればよいうという「正解」は存在しない。だからこそ，具体的な実践をもとにして，問い直しを行い続けること，問い直す場を生み出すことが求められる。本科目では，「学習・授業・教材」の3つのレベルを取り上げ，実践記録や授業検討会，教師の実践知，社会的構成主義の学習観，協同学習の技法などを切り口にして，授業の問い直しとその方法について学ぶことを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 学校の教育活動の中の各教科等の位置付け，意義，目的</p> <p>第3回 めざす子ども像と理想とする授業づくり</p> <p>第4回 めざす子ども像—課題発見の具体と演習</p> <p>第5回 授業づくりの基礎・基本としての学習指導要領</p> <p>第6回 学習指導要領の理解のための演習</p> <p>第7回 学習内容の連続性・系統性の理解</p> <p>第8回 まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年3月告示，文部科学省），中学校学習指導要領（平成29年3月告</p>			

示，文部科学省），高等学校学習指導要領（平成30年3月告示，文部科学省）

*なお，学生は，それぞれの専門とする各教科の学習指導要領の解説編を購入すること。

参考書・参考資料等

課題図書・論文は，講義中に適宜紹介するとともに，配布する。

学生に対する評価

<成績評価の方法>

- ・レポートと発表内容をもとにして，目標に対する到達状況を協議し，評価する（60％）。
- ・授業に対する積極的な参画状況について，協議し，評価する（40％）

<成績評価の観点>

- ・課題レポートの評価では，学修内容に関する基礎的な理解，論証過程の適切性や根拠の豊かさ，深まりを評価の観点とする。
- ・授業に対する積極的な参画状況については，発表資料の作成の関与や，役割，また，フォローアップを評価の観点とする。

授業科目名： 教材開発と授業デザイン Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮本 浩治 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材分析，教材開発の理論を習得し，具体の授業と結びつけ，批判的に検討できる。 ・学習に関する理論を習得し，授業の具体例と結びつけ，批判的に検討できる。 ・主体的・能動的な学習を実現するための方法について学び，授業の具体例と結びつけて考えることができる。 ・授業づくりに関するさまざまな理論を批判的に検討し，教員としての力量形成や教員研修の場づくりに役立てられるようになる。 ・主体的・能動的な学習を実現するための方法について学び，自らの実践を相対化すると共に，新たな授業の可能性を考案できるようになる 			
<p>授業の概要</p> <p>目指す「学力観」を視座に置き，「思考力，判断力，表現力」を育成するための教材開発の視座を獲得することを第一の目的とする。また，「学習論の展開」を認識し，「授業論」を確立した上で，ワークショップや活動を核にし，主体的に学ぶという観点からの授業デザイン理論を獲得することを目的とする。とりわけ，第2学期においては，「学習論の展開」を中心とした議論を確認していく。こうした議論をもとにして，模擬授業，省察活動等の演習を通して，妥当性・適時性のある教材開発や授業デザインの理論と実際を探究することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 教材開発と授業デザインの基礎演習—知識・技能の定着をめざす教材開発と授業理論の構築—</p> <p>第2回 教材開発と授業デザインの基礎演習—思考力・判断力・表現力の育成をめざす教材開発と授業理論の構築—</p> <p>第3回 教材開発と授業デザインの基礎演習—思考力・判断力・表現力の育成をめざす学習のあり方と授業理論の構築—</p> <p>第4回 教材開発と授業デザインの基礎演習—言語活動の充実に資する教材開発のあり方と授業デザイン論の構築—</p> <p>第5回 教材開発と授業デザインの基礎演習—活用を軸にして，習得と探求を促す教材開発と</p>			

授業デザイン理論の構築—

第6回 教材開発と授業デザインの基礎演習—アクティブラーニングの理論と教材開発—

第7回 教材開発と授業デザインの基礎演習—現代的教育課題を解決する教育実践の方法と教材開発—

第8回 まとめ

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月告示，文部科学省），中学校学習指導要領（平成29年3月告示，文部科学省），高等学校学習指導要領（平成30年3月告示，文部科学省）

*なお，学生は，それぞれの専門とする各教科の学習指導要領の解説編を購入すること。

参考書・参考資料等

課題図書・論文は，講義中に適宜紹介するとともに，配布する。

学生に対する評価

<成績評価の方法>

- ・レポートと発表内容をもとにして，目標に対する到達状況を協議し，評価する（60%）。
- ・授業に対する積極的な参画状況について，協議し，評価する（40%）

<成績評価の観点>

- ・課題レポートの評価では，学修内容に関する基礎的な理解，論証過程の適切性や根拠の豊かさ，深まりを評価の観点とする。
- ・授業に対する積極的な参画状況については，発表資料の作成の関与や，役割，また，フォローアップを評価の観点とする。

授業科目名： 授業の指導計画と学習開発 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮本 浩治 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導の理論と実践を往還させ、教科の授業改革を積極的に図る分析力を獲得する。 ・特徴的な授業設計、授業実践力を伸ばすことができる。 ・協働して高度な教材開発力、授業実践研究力を構成することができるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>教科指導等におけるカリキュラムに基づきながら、授業設計・授業省察・授業改善、および教材開発、教材開発・教材分析の方略等について、教科横断的、かつ実践的に検討する。検討に当たっては、新卒院生、現職院生の職能発達に応じて、模擬授業、ワークショップをチームで行うこととなる。学力の形成を促すためには、各教科領域の目標・内容に即して、創意・工夫された授業の構成・展開と多様な学習者の条件・状況に応じた高度な学習指導の方法・技術とが統一的に結合して成立することが必要となる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 意欲と学びを育てる授業デザイン</p> <p>第2回 学習論の展開 学習論についての議論</p> <p>第3回 社会的構成主義に立つ学習観 現代的教育課題と新しい学習観についての議論</p> <p>第4回 授業デザインを支える教育技術と方法 教育技術と方法に関する見方に関する議論</p> <p>第5回 学習の協同性と協同学習の技法 「合い」のある学びを構築する理論に関する成果と課題</p> <p>第6回 主体的・能動的な学習を促す環境デザインと学びのデザイン 主体的であるということに関する議論</p> <p>第7回 学習論の批判的検討 学習論の展望</p>			

第8回 まとめ

定期試験／定期試験を実施しない

テキスト

あなたの授業力はどのくらい？：デキる教師の7つの指標（ジェフ・C・マーシャル（著），池田匡史・雲財寛・吉田新一郎（訳），教育開発研究所，2022）

参考書・参考資料等

課題図書・論文は，講義中に適宜紹介するとともに，配布する。

学生に対する評価

<成績評価の方法>

- ・レポートと発表内容をもとにして，目標に対する到達状況を協議し，評価する（60％）。
- ・授業に対する積極的な参画状況について，協議し，評価する（40％）

<成績評価の観点>

- ・課題レポートの評価では，学修内容に関する基礎的な理解，論証過程の適切性や根拠の豊かさ，深まりを評価の観点とする。
- ・授業に対する積極的な参画状況については，発表資料の作成の関与や，役割，また，フォローアップを評価の観点とする。

授業科目名： 授業の指導計画と学習開発Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮本 浩治 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導の理論と実践を往還させ、教科の授業改革を積極的に図る分析力を獲得する。 ・特徴的な授業設計、授業実践力を伸ばすことができる。 ・協働して高度な教材開発力、授業実践研究力を構成することができるようになる。 			
授業の概要			
<p>教科指導等におけるカリキュラムに基づきながら、授業設計・授業省察・授業改善、および教材開発、教材開発・教材分析の方略等について、教科横断的、かつ実践的に検討する。検討に当たっては、新卒院生、現職院生の職能発達に応じて、模擬授業、ワークショップをチームで行うこととなる。学力の形成を促すためには、各教科領域の目標・内容に即して、創意・工夫された授業の構成・展開と多様な学習者の条件・状況に応じた高度な学習指導の方法・技術とが統合的に結合して成立することが必要となる。</p>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回 授業設計のワークショップ			
第3回 新しい学びの構築のための理論			
第4回 新しい学びの構築のためのワークショップ			
第5回 教科の特徴とカリキュラムの検討			
第6回 教材分析とカリキュラムの構成			
第7回 学びの履歴づくりと授業設計			
第8回 まとめ			
テキスト			
あなたの授業力は何のくらい？：できる教師の7つの指標（ジェフ・C・マーシャル（著），池田匡史・雲財寛・吉田新一郎（訳），教育開発研究所，2022）			
参考書・参考資料等			
課題図書・論文は、講義中に適宜紹介するとともに、配布する。			
学生に対する評価			

<成績評価の方法>

- ・レポートと発表内容をもとにして、目標に対する到達状況を協議し、評価する（60％）。
- ・授業に対する積極的な参画状況について、協議し、評価する（40％）

<成績評価の観点>

- ・課題レポートの評価では、学修内容に関する基礎的な理解、論証過程の適切性や根拠の豊かさ、深まりを評価の観点とする。
- ・授業に対する積極的な参画状況については、発表資料の作成の関与や、役割、また、フォローアップを評価の観点とする。

授業科目名： 生徒指導と学校カウンセリングの実践と課題Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 伊住 継行 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①子どもの社会的・情緒的な発達状況や子どもの内的葛藤を把握し評価することができる。</p> <p>②生徒理解・生徒指導の多様な方法を理解しており、子ども集団づくりを中心とした多様な方法を実践することができる。</p> <p>③カウンセリングマインドを理解するとともに、相談技法を身に付け、教育相談に生かすことができる。</p> <p>④同僚との協働や関係諸機関、地域等と連携した生徒指導を組織化することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>子どもたちの社会的・情緒的発達と今日の生徒指導をめぐる諸課題について理解を深めるとともに、生徒指導の代表的な指導方法（カウンセリング、集団づくり、保護者・関係機関との連携等）について、学校における組織的な生徒指導の実践力を高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 生徒指導の意義と原理</p> <p>第3回 子ども理解</p> <p>第4回 学校生活全般における生徒指導</p> <p>第5回 授業における生徒指導</p> <p>第6回 生徒指導事案のケーススタディ①</p> <p>第7回 生徒指導事案のケーススタディ②</p> <p>定期試験を実施しない</p>			
テキスト：『生徒指導提要—令和4年12月—』、文部科学省、東洋館出版社、2023.			
参考書・参考資料等：『学校カウンセリング入門〔第3版〕』、友久久雄編、ミネルヴァ書房、2016			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートとグループワーク、発表内容をもとにして、目標に対する到達状況を協議し、評価する（60%） ・授業に対する積極的な参画状況について、協議し、評価する（40%） 			

<成績評価の観点>

- ・ 課題レポートの評価では、学習内容に関する基礎的な理解、根拠とする発育発達理論や対象理解の豊かさ、深まりを評価の観点とする。
- ・ 授業に対する積極的な参画状況については、発表資料の作成過程の取り組み、役割、また、フォローシップを評価の観点とする。

授業科目名： 生徒指導と学校カウンセリングの実践と課題Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 伊住 継行 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①子どもの社会的・情緒的な発達状況や子どもの内的葛藤を把握し評価することができる。</p> <p>②生徒理解・生徒指導の多様な方法を理解しており、子ども集団づくりを中心とした多様な方法を実践することができる。</p> <p>③カウンセリングマインドを理解するとともに、相談技法を身に付け、教育相談に生かすことができる。</p> <p>④同僚との協働や関係諸機関、地域等と連携した生徒指導を組織化することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>子どもたちの社会的・情緒的発達と今日の生徒指導をめぐる諸課題について理解を深めるとともに、生徒指導の代表的な指導方法（カウンセリング、集団づくり、保護者・関係機関との連携等）について、学校における組織的な生徒指導の実践力を高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション・教育相談</p> <p>第2回 危機管理</p> <p>第3回 同僚性を基盤とした協働的生徒指導体制の構築(1)</p> <p>第4回 同僚性を基盤とした協働的生徒指導体制の構築(2)</p> <p>第5回 部活動の地域移行と生徒指導</p> <p>第6回 地域と連携した生徒指導体制の構築</p> <p>第7回 学習の振り返りとまとめ</p> <p>定期試験を実施しない</p>			
テキスト：『生徒指導提要—令和4年12月—』，文部科学省，東洋館出版社，2023.			
参考書・参考資料等：『学校カウンセリング入門〔第3版〕』，友久久雄編，ミネルヴァ書房，2016			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートとグループワーク、発表内容をもとにして、目標に対する到達状況を協議し、評価する（60%） ・授業に対する積極的な参画状況について、協議し、評価する（40%） 			

<成績評価の観点>

- ・ 課題レポートの評価では、学習内容に関する基礎的な理解、根拠とする発育発達理論や対象理解の豊かさ、深まりを評価の観点とする。
- ・ 授業に対する積極的な参画状況については、発表資料の作成過程の取り組み、役割、また、フォローシップを評価の観点とする。

授業科目名： 教育実践研究の方法Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金川 舞貴子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①学生の教育実践研究上の関心（テーマ）を解決するのに適した研究方法を知る。</p> <p>②その方法を用いた教育実践研究をプランニングできるようになる。</p> <p>③教育実践研究の結果を適切な方法によりまとめ、報告することができるようになる。</p>			
授業の概要			
<p>本授業は、教職大学院の共通科目5領域に加え、「アクションリサーチとしての教師」の育成に向けて、岡山大学教職大学院が独自に共通科目として設定したものである。「学校における実習」と連動する「教育実践研究」の質を高めるためのものであり、教育実践を論理的、客観的な科学的手続きによって進め、より妥当性の高い研究成果を算出するための研究方法を学修することを目的としている。具体的には、質問紙調査、インタビュー調査や事例調査、地域診断などである。</p>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション アクションリサーチ①～イントロダクション～			
第2回 アクションリサーチ②～理論的基盤～ アクションリサーチ③～教師が「研究」するとは？岡山大学の「教育実践研究」の基本的な考え方～			
第3回 文献研究の方法①～文献収集の仕方～ 文献研究の方法②～キーワード・キー概念の抽出～			
第4回 文献研究の方法③～キー概念の定義づけ～ 文献研究の方法④～文献の「背景」を読み解く、「問い」を立てる～			
第5回 量的研究の理論と方法①～科学的根拠（エビデンス）の種類と使い方～ 量的研究の理論と方法②～教育効果を検証する方法～			
第6回 量的研究の理論と方法③～教育効果を調べる仮説の作り方～ 量的研究の理論と方法④～教育データの整理（演習）～			
第7回 量的研究の理論と方法⑤～教育データの分析（演習）～ 量的研究の理論と方法⑥～分析結果の書き方&読み方（演習）～			

テキスト 授業において資料を配布する。
参考書・参考資料等 ・高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、1979年。 ・岡山尚也著『課題研究メソッドーよりよい探究活動のために』啓林館、2017年。 ・岡本尚也著『課題研究メソッド』啓林館、2019年。 ・苅谷剛彦『知的複眼思考法 誰でも持っている想像力のスイッチ』講談社、2002年。 ・小野由美子ほか編著『学校経営研究における臨床的アプローチの構築－研究・実践の新たな関係性を求めて』北大路書房、2004年。 その他、授業中に適宜、資料を配布あるいは紹介する。
学生に対する評価 各テーマに関して出される課題・レポート（100%）

授業科目名： 教育実践研究の方法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 金川 舞貴子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①学生の教育実践研究上の関心（テーマ）を解決するのに適した研究方法を知る。</p> <p>②その方法を用いた教育実践研究をプランニングできるようになる。</p> <p>③教育実践研究の結果を適切な方法によりまとめ、報告することができるようになる。</p>			
授業の概要			
<p>本授業は、文部科学省が示した教職大学院の共通科目 5 領域に加え、岡山大学教職大学院が独自に共通科目として設定したものである。「教育実践研究の方法Ⅰ」に引き続き、地域診断、質問紙調査、事例研究、フィールドワークなどを扱う。</p>			
授業計画			
<p>第 1 回 質的研究の理論と方法①～質問調査の枠組みとパラダイム 質的研究の理論と方法④～プロトコル分析の考え方</p> <p>第 2 回 質的研究の理論と方法③～プロトコル分析（演習） 質的研究の理論と方法④～分析結果の解釈</p> <p>第 3 回 自由記述調査とインタビュー調査の理論と方法①～理論的理解 自由記述調査とインタビュー調査の理論と方法②～調査枠組みと調査計画の立案</p> <p>第 4 回 自由記述調査とインタビュー調査の理論と方法③～調査の実施 自由記述調査とインタビュー調査の理論と方法④～自由記述調査の分析</p> <p>第 5 回 自由記述調査とインタビュー調査の理論と方法⑤～インタビュー調査の分析 自由記述調査とインタビュー調査の理論と方法⑥～プレゼンテーション</p> <p>第 6 回 地域診断・学校分析の理論と方法①～通学区域の分析方法 地域診断・学校分析の理論と方法②～通学区域の分析の実際</p> <p>第 7 回 地域診断・学校分析の理論と方法③～課題演習：実習校付近の分析（演習） 地域診断と学校分析の理論と方法④～分析結果の共有と考察</p> <p>定期試験を実施しない</p>			
テキスト			
授業において資料を配布する。			

参考書・参考資料等

- ・秋田喜代美、藤江康彦『これからの教師研究－20の事例にみる教師研究方法論』東京図書、2021年。
- ・秋田喜代美、藤江康彦『これからの質的研究法－15の事例にみる学校教育実践研究』東京大学出版会、2019年。
- ・岡山尚也著『課題研究メソッドーよりよい探究活動のために』啓林館、2017年。
- ・岡本尚也著『課題研究メソッド』啓林館、2019年。

その他、授業において適宜、紹介・配布する。

学生に対する評価

各テーマに関する課題・レポート（100%）

授業科目名： 授業アセスメント技術と その応用A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮本 浩治 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①授業分析の目的・目標、技法、過程、体制等を理解する。</p> <p>②授業分析することで授業の課題を明らかにし、その問題解決の手だてを考察して、新たな実践を行うができる。</p> <p>③授業記録にもとづいて授業分析を行い、授業改善のための校内研修を組織することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>全教科・学校種で共通する授業実践を分析・評価するための技術について、事例の分析を通して習得するとともに、習得した技術をもとにした授業分析を行い、校内研修等で役立つスキルを身につけ、研修の効果的指導を行うだけの技量の高度化をめざす。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 授業アセスメントを行う意義</p> <p>第3回 授業アセスメント技術の内実</p> <p>第4回 授業アセスメントの実際</p> <p>第5回 授業分析の観点の習得</p> <p>第6回 授業分析の観点を習得するための演習</p> <p>第7回 授業分析の観点の活用</p> <p>第8回 まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業研究－実践を変え、理論を革新する－（木村優・岸野麻衣（著），新曜社，2019）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>課題図書・論文は、講義中に適宜紹介するとともに、配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p><成績評価の内容></p> <p>・レポートと発表内容をもとにして、目標に対する到達状況を協議し、評価する（60％）。</p>			

- ・授業に対する積極的な参画状況について，協議し，評価する（40％）。

<成績評価の観点>

- ・課題レポートの評価では，学修内容に関する基礎的な理解，論証過程の適切性や根拠の豊かさ，深まりを評価の観点とする。その際，適切にデータを処理していることを第一の観点とする。
- ・授業に対する積極的な参画状況については，発表資料の作成の関与や，役割，また，フォローアップを評価の観点とする。

授業科目名： 授業アセスメント技術と その応用B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮本 浩治 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①授業分析の目的・目標、技法、過程、体制等を理解する。</p> <p>②授業分析することで授業の課題を明らかにし、その問題解決の手だてを考察して、新たな実践を行うができる。</p> <p>③授業記録にもとづいて授業分析を行い、授業改善のための校内研修を組織することができる。</p>			
授業の概要			
全教科・学校種で共通する授業実践を分析・評価するための技術について、事例の分析を通して習得するとともに、習得した技術をもとにした授業分析を行い、校内研修等で役立つスキルを身につけ、研修の効果的指導を行うだけの技量の高度化をめざす。			
授業計画			
第1回 授業分析の観点を活用するための演習			
第2回 授業分析演習－小学校算数科の授業を中心として－			
第3回 小学校算数科の授業を中心とした授業分析についての議論			
第4回 授業分析演習－中学校保健体育科の授業を中心として－			
第5回 中学校保健体育科の授業を中心とした授業分析についての議論			
第6回 授業分析演習－高等学校国語科の授業を中心として－			
第7回 高等学校国語科の授業を中心とした授業分析についての議論			
第8回 まとめ			
テキスト			
授業研究－実践を変え、理論を革新する－（木村優・岸野麻衣（著），新曜社，2019）			
参考書・参考資料等			
課題図書・論文は、講義中に適宜紹介するとともに、配布する。			
学生に対する評価			
＜成績評価の内容＞			
・レポートと発表内容をもとにして、目標に対する到達状況を協議し、評価する（60％）。			

- ・授業に対する積極的な参画状況について，協議し，評価する（40％）。

<成績評価の観点>

- ・課題レポートの評価では，学修内容に関する基礎的な理解，論証過程の適切性や根拠の豊かさ，深まりを評価の観点とする。その際，適切にデータを処理していることを第一の観点とする。
- ・授業に対する積極的な参画状況については，発表資料の作成の関与や，役割，また，フォローアップを評価の観点とする。

授業科目名： 指導と評価の理論と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮本 浩治 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 教育評価に関する基本的な概念の理解を深めるとともに、実際に授業改善や学校改善に使える評価スキルを習得する。			
授業の概要 適切な学習指導をはじめとする教育活動を行うためには、適切な評価が求められる。近年、学校の特色や独自性が求められるようになったこともあり、また学習に関して「目標に準拠した評価」が導入されたことや、教師の評価する力の必要性は、ますます高まっている。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 教育評価研究の動向と実際 第3回 観点別到達度評価の実際 第4回 学習指導と学習評価 第5回 評価資料の収集と評価の影響 第6回 「真正の評価」論とパフォーマンス評価 第7回 ルーブリック作成ワークショップ 第8回 まとめ			
テキスト 新しい教育評価入門一人を育てる評価のために－（西岡加奈恵・石井英真・田中耕治編著，有斐閣，2015）			
参考書・参考資料等 課題図書・論文は、講義中に紹介するとともに、配布する。			
学生に対する評価 ＜成績評価の方法＞ ・レポートと発表内容をもとにして、目標に対する到達状況を協議し、評価する（60％）。 ・授業に対する積極的な参画状況について、協議し、評価する（40％）。 ＜成績評価の観点＞			

- ・課題レポートの評価では、学修内容に関する基礎的な理解，論証過程の適切性や根拠の豊かさ，深まりを評価の観点とする。その際，適切にデータを処理していることを第一の観点とする。
- ・授業に対する積極的な参画状況については，発表資料の作成の関与や，役割，また，フォローアップを評価の観点とする。

授業科目名： 授業デザインの基礎・基本A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮本 浩治 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領，及び学習指導要領解説，生徒指導提要を読み込み，正確に理解するとともに，その構造を理解することができる。 ・ 教科教育研究の成果，教科教育実践研究開発の営みを整理しながら，学習指導要領の指導事項や言語活動例，発達支持的生徒指導を意識した授業デザインのあり方について理解する。 ・ 授業研究の方法についての理解を深め，自己の授業デザイン意識を省察し，自分なりの授業観や学習観を構築することができる。 			
授業の概要			
<p>学校教育における活動の中核は授業であり，よりよい授業を実践するためには，授業を分析・評価するとともに，成果と課題を把握し，課題の改善を図ることが必要である。本授業科目では，学部新卒院生を対象として，学習指導構想のあり方について学修するとともに，授業分析の手順とその分析方法等について理解するとともに，分析結果から成果と課題の原因を究明し，改善策を設定することができるための具体的な方法論について検討していくこととする。</p>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回 学習指導要領，及び学習指導要領解説編を読む			
第3回 教科教育研究の成果，教科教育実践研究開発の営みの整理			
第4回 教科教育研究の成果，教科教育実践研究開発の営みを意識した授業開発			
第5回 教科指導と発達支持的生徒指導の関係、生徒指導を意識した授業開発			
第6回 児童生徒理解を基盤にした教科指導の具体			
第7回 授業記録の作成と質的データの分析			
第8回 授業分析の手法と改善策の提案の具体			
テキスト			
授業づくりの深め方ー「よい授業」をデザインするための5つのツボー（石井英真，ミネルヴァ書房，2020）			
参考書・参考資料等			

課題図書・論文は、講義中に適宜紹介するとともに、配布する。

学生に対する評価

<成績評価の方法>

- ・レポートと発表内容をもとにして、目標に対する到達状況を協議し、評価する（60%）。
- ・授業に対する積極的な参画状況について、協議し、評価する（40%）

<成績評価の観点>

- ・課題レポートの評価では、学修内容に関する基礎的な理解，論証過程の適切性や根拠の豊かさ，深まりを評価の観点とする。
- ・授業に対する積極的な参画状況については，発表資料の作成の関与や，役割，また，フォローアップを評価の観点とする。

授業科目名： 授業デザインの基礎・基本B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮本 浩治 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領，及び学習指導要領解説，生徒指導提要を読み込み，正確に理解するとともに，その構造を理解することができる。 ・ 教科教育研究の成果，教科教育実践研究開発の営みを整理しながら，学習指導要領の指導事項や言語活動例，発達支持的生徒指導を意識した授業デザインのあり方について理解する。 ・ 授業研究の方法についての理解を深め，自己の授業デザイン意識を省察し，自分なりの授業観や学習観を構築することができる。 			
授業の概要			
<p>学校教育における活動の中核は授業であり，よりよい授業を実践するためには，授業を分析・評価するとともに，成果と課題を把握し，課題の改善を図ることが必要である。本授業科目では，学部新卒院生を対象として，学習指導構想のあり方について学修するとともに，授業分析の手順とその分析方法等について理解するとともに，分析結果から成果と課題の原因を究明し，改善策を設定することができるための具体的な方法論について検討していくこととする。</p>			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回 提案的な授業構築のための視点の獲得			
第3回 学習指導要領解説編の読解と学習指導案の構想のためのワークショップ			
第4回 作成した学習指導案の検討と修正			
第5回 学習指導の実際と振り返り			
第6回 授業づくりの視座の獲得			
第7回 授業反省の視点の習得と学習指導案の再構成			
第8回 授業づくりの基礎・基本を考えるための議論			
テキスト			
授業づくりの深め方ー「よい授業」をデザインするための5つのツボー（石井英真，ミネルヴァ書房，2020）			
参考書・参考資料等			

課題図書・論文は、講義中に適宜紹介するとともに、配布する。

学生に対する評価

<成績評価の方法>

- ・レポートと発表内容をもとにして、目標に対する到達状況を協議し、評価する（60%）。
- ・授業に対する積極的な参画状況について、協議し、評価する（40%）

<成績評価の観点>

- ・課題レポートの評価では、学修内容に関する基礎的な理解，論証過程の適切性や根拠の豊かさ，深まりを評価の観点とする。
- ・授業に対する積極的な参画状況については，発表資料の作成の関与や，役割，また，フォローアップを評価の観点とする。

授業科目名： 子ども分析と学級経営	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 伊住 継行
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
①子どもを分析的かつ総合的・全体的に把握するための方法について理解する。			
②子ども集団に求められる関係性について理解する。			
③学級の子ども集団を自主的に・自治的な集団へと発展させる方法を身に付ける。			
授業の概要			
子どもの実態を分析的かつ総合的・全体的に把握し、それに基づいて、学級の子ども集団をより平和的で民主的・共同的な関係のある自主的・自治的な集団へと発展させていく方法について学ぶ。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回 子どもの発達の特徴			
第3回 気になる子どもの分析			
第4回 子ども分析の交流			
第5回 子ども分析の発表			
第6回 子ども集団の発達の特徴			
第7回 子ども集団の分析			
定期試験を実施しない			
テキスト：『生徒指導提要—令和4年12月—』，文部科学省，東洋館出版社，2023.			
参考書・参考資料等：なし			
パワーポイント等の資料を配付する。			
学生に対する評価			
授業中の言動、提出物及び最終課題「学級経営プラン」により総合的に評価する。			

授業科目名： 生徒指導と発達支援教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 伊住 継行 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 ①いじめ、不登校等の生徒指導上の課題について総合的に理解する。 ②子どもの課題を踏まえた生徒指導の方法を選択して実践できる。 ③子どもの課題を踏まえた生徒指導の取組について、他の教員に対して適切な助言ができる。 ④特別支援教育の観点を適度に持ちつつ、これまでの生徒指導において大切にしてきたことを再認識しながら、子どもの問題行動に対処することができる。			
授業の概要 いじめ、不登校をはじめとした多様化する子どもの生徒指導上の諸課題や保護者等への対応、専門諸機関との連携について総合的に理解し、事例研究等を通して適切な生徒指導に取り組む実践力を身に付ける。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 「子どもと一緒に見る」から生まれる「ほんものの言葉」 第3回 「子どもと一緒に見る」から生まれる「待つ」という行為 第4回 生徒の抱える課題に対する理解と対応 第5回 生徒指導における保護者や関係機関との連携 第6回 小学校における生徒指導・特別支援教育の視点と対応 第7回 中学校における生徒指導・特別支援教育の視点と対応 定期試験を実施しない			
テキスト：なし			
参考書・参考資料等 『生徒指導提要—令和4年12月—』，文部科学省，東洋館出版社，2023.			
学生に対する評価 授業中への積極的参加（意欲，討議内容等）：50%，事例レポート及びワークショップ：50% 総合的に評価する。			

授業科目名： 学校におけるICT活用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮本 浩治 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 学校教育におけるICTの活用について、これまでの歴史や現状について理解するとともに、ICTを活用した学習指導のこれからの在り方について見方や考え方を深める。			
授業の概要 学校教育におけるICTの活用について、これまでの歴史や現状を踏まえた新しい教育の在り方を検討し、授業等でのICTの効果的な活用の仕方を探る。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：教育現場におけるICTの普及現状 第3回：学習効果を高めるICTの活用(効果的な資料提示) 第4回：学習効果を高めるICTの活用(思考支援) 第5回：情報の管理とセキュリティ対策 第6回：情報モラル 第7回：ICTを活用した教育のあり方 第8回：まとめ			
テキスト 教育の方法と技術Ver. 2：IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び（稲垣忠編著，北大路書房，2022）			
参考書・参考資料等 課題図書・論文は，講義中に適宜紹介するとともに，配布する。			
学生に対する評価 ＜成績評価の方法＞ ・レポートと発表内容をもとにして，目標に対する到達状況を協議し，評価する（60％）。 ・授業に対する積極的な参画状況について，協議し，評価する（40％） ＜成績評価の観点＞ ・課題レポートの評価では，学修内容に関する基礎的な理解，論証過程の適切性や根拠の豊か			

さ、深まりを評価の観点とする。

・授業に対する積極的な参画状況については、発表資料の作成の関与や、役割、また、フォローアップを評価の観点とする。

授業科目名： 教科・領域を横断した学 びのデザイン（ESD）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤井 浩樹 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 教科・領域を横断した学びとしてのESDについて、「学びをつくる力」「学びでつながる力」「学 び続ける力」の基礎を身に付ける。			
授業の概要 教科・領域を横断した学びとしてのESDについて、「学びをつくる」ための教育課程と授業、学 習指導法及び学習評価について考察する。また、ESDの「学びでつながる」ために、学校内の同 僚、地元地域及び他校との連携について考察する。さらに、ESDを「学び続ける」ために、新し い学びにチャレンジ・省察・継続するのに必要な自己研鑽について考察する。			
授業計画 第1回：ESDの理念と目標 第2回：教科・領域を横断した学びとしてのESDの特性 第3回：ESDの「学びをつくる」ための教育課程と授業：小学校の場合 第4回：ESDの「学びをつくる」ための学習指導法：小学校の場合 第5回：ESDの「学びをつくる」ための学習評価：小学校の場合 第6回：ESDの「学びをつくる」ための教育課程と授業：中・高等学校の場合① 第7回：ESDの「学びをつくる」ための学習指導法：中・高等学校の場合① 第8回：ESDの「学びをつくる」ための学習評価：中・高等学校の場合① 第9回：ESDの「学びをつくる」ための教育課程と授業：中・高等学校の場合② 第10回：ESDの「学びをつくる」ための学習指導法：中・高等学校の場合② 第11回：ESDの「学びをつくる」ための学習評価：中・高等学校の場合② 第12回：ESDの「学びでつながる」ための学校内の同僚との連携 第13回：ESDの「学びでつながる」ための学校内の地元地域及び他校との連携 第14回：ESDを「学び続ける」ためのチャレンジ・省察・継続 第15回：ESDを「学び続ける」ための自己研鑽			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 藤井浩樹・川田力監修、広島県福山市立駅家西小学校編、未来をひらくESDの授業づくりー小			

学生のためのカリキュラムをつくるー、ミネルヴァ書房、2012年.

学生に対する評価

授業中の態度と意欲（40％）と期末レポート（60％）によって総合的に評価する。